



JAPAN HANGGLIDING FEDERATION

JHFレポート

3・4月号
2001年

(社)日本ハンググライディング連盟 発行

<http://jhf.skysports.or.jp/>

春、到来。

山々の雪解けはもう少し先だが、
風の冷たさが緩んできた。
本格的フライトシーズンの到来だ。
日毎に色彩を増す眼下の風景に
風に乗ってくる大地の匂いに
こころ躍る季節がやってきた。

次期JHF役員選挙を実施します。

1999年3月の選挙で選ばれた現役員(理事・監事)は、2001年3月31日に任期満了を迎えます。これに伴い、次期役員選挙を下記の日程で行います。詳細はJHFホームページ、またはJHF選挙公報をご覧ください。

- ☐ 1月12日(金) 選挙公示
- ☐ 2月9日(金) 立候補締切り
- ☐ 2月20日(火) 立候補者公示
- ☐ 3月13日(火) 投票
(3月通常総会会場で正会員が投票する)

JHFレポート 3・4月号

Contents

- P 2 **新世紀特別記事** **航空界の事始め—
100年を振り返る〈後編〉**
そして、新たなロマンの時代へ。
- P 4 **安全講座** **春を事故なく飛ぶために。**
春の事故を防ぐために必要なこと。
- P 6 ウツカリミスの防止策＝クロス・チェック

- P 7 より安全なフライトのために 事故報告
- P 8 県連だより〈栃木県ハング・パラグライディング連盟〉
- P 13 県連ニュース カレンダー
- P 14 委員会の動き
- P 16 理事会ダイジェスト 理事活動報告
- P 16 **@sky** 空の楽しさ満載の情報ページ。

航空界の事始め—100年を振り返る

後編

飛行への渴望につき動かされた人間たちが、広大な空を航り始めた。
「航空の時代」20世紀、パイオニアの100年を振り返る。

航空ジャーナリスト 矢ヶ崎 弘志

空の大航海時代はじまる

第一次世界大戦の終わりは、航空機が新たな発展に向かう出発点でもあった。払下の軍用機に替わる新型機が登場し、「より速く、より高く、より遠くへ」を目指す気運が加速されてゆく。その最初の目標は海を飛び越えることだった。ねらいは長距離航空路の開拓にある。パイロットたちの眼は遠くを眺めるようになった。視線の先は大海原の彼方である。こうして、空の大航海時代が開幕した。1920年代に入って間もなくの

ことだ。

400年前の大航海時代とはちがって、船で大洋を渡るなど冒険でも何でもなくなっていたが、その上にある広大な空間は未知の領域のままだった。機体やエンジンにしても、それほど信頼性は高くなかったし、使える航法器材だったかが知れたもの。それで洋上を数千キロメートルも飛ばうとしたんだから、ただの冒険飛行じゃなく頭に“大”の字をつけて呼ばねばなるまい。(今のハングフライヤーは100km程度の飛行にもGPSを持っていく。チト過剰装備ではありませんか?)

現代のコロンブスやマゼランたちが挑んだ大飛行は、まず大西洋無着陸横断であっ

た。単にそれだけならば、1919年にオルコックとブラウンが達成してはいる。しかし、あの飛行は人里離れた場所から出発し、村外れの荒地に着いたようなもの。航空史に残る飛行ではあったが、航空路を拓いたとまではいいがたい。勝負はこれからというときに、フランス人の実業家レイモン・オルティエグが、最初にニューヨーク〜パリ間を無着陸飛行した者に、2万5千ドルの賞金を提供すると発表した。絶妙のタイミングである。大西洋横断飛行を計画していたパイロット達に大きな目標ができた。

成功すれば新しい航空路の開拓者という名誉ばかりでなく、高額な賞金も手に出来るとあって、何人ものパイロットが名乗りをあげたが、名誉と賞金を得たのは無名の郵便飛行士チャールズ・リンドバーグだった。以下は周知のことだから多言は要しないだろうが、彼は1927年5月20日ニューヨークのルーズベルト飛行場を離陸、33時間39分でパリのル・ブルジェ飛行場に到着、新旧両大陸の象徴ともいべき大都市間を初めて結んだのである。しかも単独飛行で。リンドバーグが20世紀を代表する人物の候補に挙げたことから、彼の飛行が当時の社会に与えたインパクトの強さがうかがえよう。

冒険飛行はつづく

リンドバーグの成功によって、大西洋横断は一応の決着がついた。次は太平洋となったのは当然のことだろう。しかし、ニューヨーク〜パリ間を40%ほど上回る距離を飛ばねばならないのだから、大西洋横断よりも一段と困難であった。

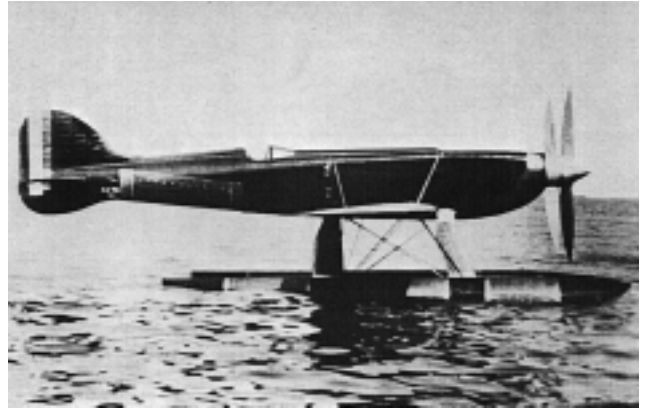
とにかく太平洋は広いと実感させられるのが、1927年のドール・エアダービーだろう。リンドバーグの飛行から3ヶ月後に開催されたこのレース、ハワイのパナナ農園主J.D.ドールが総額3万5千ドル(1等2万5千ドル、2等1万ドル)を提供しての冠賞金レースで、区間はカリフォルニア州オークランド⇒ホ



パリへ向かうリンドバーグの乗機スピリット・オブ・セントルイス（ニューヨークを離陸した直後）



水上機のためのスピードレース「シュナイダートロフィーレース」のポスター
(1921年・ベネツィア)



マッキ MC-72 1934年に世界速度記録を作り、今も水上機の記録ホルダー



数々の長距離飛行に成功した
あと大太平洋に消えたアメリ
ア・イアハート

ノルル。距離は太平洋横断の半分以下だったのにもかかわらず、参加8機のうち4機は離陸時のクラッシュなどでリタイア、ゴールしたのは2機のみ。残る2機は途中で消息を断ち、機体の破片すら発見されずじまい。命を落したクルーは10人という散々な結末であった。

太平洋無着陸横断が達成されたのは、それから4年後のこと。1931年10月、アメリカ人ハートンとパンクボーンが、青森県三沢市の湊代(さびしろ)海岸を離陸し、アリューシャン列島沿いに41時間あまり飛びつづけ、ワシントン州ウェナチーに到着したのである。飛行距離7,300kmであった。二人はこの飛行で、朝日新聞社が太平洋横断飛行に懸けていた賞金5万円を獲得した。当時のレートで換算すると2万5千ドル。

どうして賞金の額が、こうまで一致してしまったのだろう。秘密の国際協定が結ばれていたわけではなからうに。

太平洋横断飛行に行数を使い過ぎたようだ。再び戦乱の時代を迎えるまでの20年間には、ほかにも様々な歴史的飛行が行われているから、その主なものを簡単に紹介しておこう。紙数の都合があるので、それぞれが箇条書き程度になってしまうが、どの飛行をとっても分厚い本が出版できるほどの物語がある。

ロマンの時代とその終り、そして新たなロマンの時代へ

話題をスピード飛行に移そう。航空機の売物は高速性にあると思われがちだが、実のところ1910年代までの速度は、さほどのものではなかった。第一次大戦中の戦闘機だって、時速200kmを少し上回る程度で、レーシングカーのほうが速いくらいだったのである。それが戦後になると急激に伸びはじめ、1923年には時速400km台に突入した。数多くのスピードレースが開催され、エンジンの化物のような機体が登場したが、やがて世界速度記録争いは水上機で行われるようになる。高速性能を追求すると、当時の技術では離陸滑走距離が長くなりすぎ、陸上飛行場が使えなくなってしまったのだ。というわけで、1934年にイタリアの水上競速機マッキMC72が709km/hを出して世界速度記録を更新し、以後5年にわたり世界最高速機の座を譲らなかつた。そして、いまなおFAIの公認航空記録の水上機速度記録欄に、その名を止めている。

その他の飛行やパイロットについては、挙げれば際限がなくなるのだが、ここでは女性パイロットのアメリア・イアハート(ア

メリカ)を選ぼう。彼女は女性で初の大西洋横断に成功するなど、数々の長距離飛行で有名となったが、1937年に「これが私の最後の長距離飛行」と宣言して世界一周飛行に出発し、ニューギニアのラエからホノルルに向かう途中で消息を断った。フレッド・ヌーナンという腕利きのナビゲーターを同乗させ、アメリカ海軍の艦艇が支援していたものの、である。出発前の宣言が意味ありげに感じられるが真相は不明のまま。60年以上たった今でも、何人かのノンフィクション作家がイアハート消失の謎を解明しようと、南太平洋の島々を巡ね回っている。ひとりの女性パイロットがロマンを残して消えたのだ。

そうこうするうちに、第二次世界大戦が迫ってくる。冒険飛行に夢を膨らませる余裕はなくなりつつあった。

1945年に平和は戻ったが、皮肉なことに戦争中に航空機は大きく進歩してしまい、ロマンを感じさせる部分が少なくなっていた。

その隙間を埋めたのが、新たに登場したハンググライダー、パラグライダー、熱気球などではないだろうか。いずれも大自然の営みには全く逆えない航空機だが、乗せられているのではなく、操縦しているのだと実感できる。言葉は悪いが先祖帰りであり、それがかえって、存在感を増しているのだろう。

春を事故なく飛ぶために。

気象予報士 内藤 邦裕



陽射しが日ごとに強くなっていく春。
山々の雪も消え、サーマルシーズン到来。
ビッグフライトの予感に胸ときめかせ、エリアに一直線！
思いっきり楽しむために、気象条件のチェックは必須だ。

1 はじめに

春は日本のフライトエリアにおいて、サーマルコンディションの最も良い季節と言っても過言ではありません。

ただ、同時に気象条件に起因する事故が最も起きやすいのも春といえます。なぜ、春はビッグフライトと事故が同居する季節なのか、考えてみましょう。

2 春のサーマルコンディション

春のサーマルがなぜ良いのか、その条件を挙げると次のようになります。

条件1: 気温減率が大きい

御存知の通り、気温減率とは地上の暖かさと上空の冷たさの差のことで、この温度差が大きいほど気温減率は大きく、サーマルとしては強く、高くまで上昇するものが

発生します。春は、上空にはまだ冬の名残の冷たい空気が入ることが多い反面、日毎に強まる陽射しで地表面は暖められ、地上と上空の温度差＝気温減率が大きくなるわけです。

条件2: 空気が適度に乾燥している

空気が湿っているとサーマルが発生しても低い高度に積雲ができてしまい、雲中飛行をしない限り十分な高度を獲得することができません。また、気温減率が大きくて湿っている場合には積乱雲が発生してしまうこともあります。春の晴天は乾燥した高気圧によってもたらされることが比較的多いため、雲底高度が高くサーマルによって十分な高度を獲得することが可能です。

条件3: 地表の熱コントラストが大きい

春は夏至に向けて太陽高度が日に日に高くなり、さらに乾燥した空気は日光をあまり散乱せず、地表面に入る日射エネルギー

を弱めません。また、地表の状態も乾燥するため日射エネルギーが水蒸気の蒸発のために消費されず、効果的に地表面温度を上昇させます。こうした状況は裸地と森林などとの温度差を非常に大きくし、強力なサーマル源(熱源やトリガー)を作り出します。このような傾向は稲作地帯であれば水田に水が入り始めるまで、非稲作地帯であれば梅雨入り前まで続きます。

また、高い太陽高度は日照時間も長くし、特にクロスカントリー飛行には有利に働きます。本来、日本で最も太陽高度が高いのは夏至の頃、6月下旬なのですが、梅雨の悪天や、晴れても湿った空気の影響でコンディションはあまり芳しくないのです。

3 春のコンディションはなぜ危険か

パイロットにとって、活発なサーマルコンディションはほとんど危険と隣り合わせです。つまり、前に述べたサーマルを良くする条件はそのまま危険性を高める要素にもつながるわけです。

特に、大きい気温減率は上空においてサーマルの上昇力だけでなく外側の下降流も強めますし、地表の熱コントラストは低高度において微細な植生変化に反応した激しいサーマルとシンクの分布を作りだします。

図1は簡略化した条件下で計算した、地上から20m付近の高度での上昇流と下降流の水平分布を、地表付近の気温コントラスト毎に示したものです。おおまかに言えばサーマル源と周囲の気温差が1℃の時と5℃の時では、サーマルとシンクの境界部で生

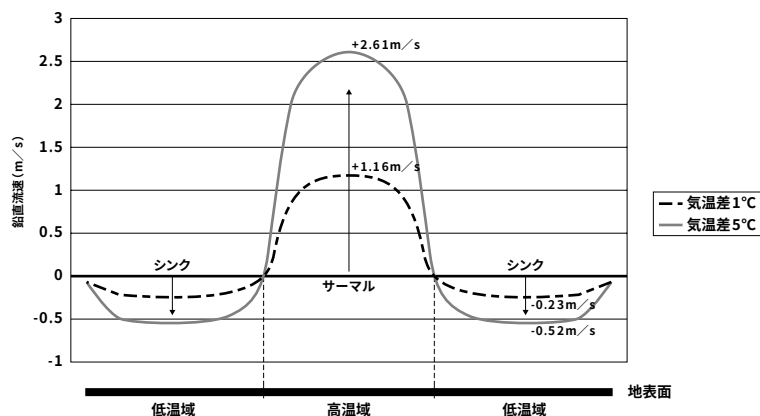


図1: 地上気温コントラストと上昇・下降流の分布 (対地高度 20 m、無風、気温減率 0.97℃/100 m)

じる速度差(加速度)は2倍以上もあります。気温差1℃というのは概ね秋の終わり、気温差5℃というのは春の終わりの5月頃に対応すると思ってよく、これが低高度での事故に直結するサーマル性タービュランスを引き起こします。

また、もう少しスケールの大きな現象を考えれば、地表の熱コントラストの大きさは谷風(Valley Wind)や海風(Sea Breeze)といった局地風も強めますし、さらに大規模には日本付近での高緯度と低緯度での温度勾配を強め、低気圧を急激に発達させることも珍しくありません。これらによる強風はどれも急に吹き出すことが多いのが特徴ですが、こうした種々のスケールの強風がサーマル性のタービュランスをさらに強化し、パラ、ハングにとって極めて危険な状況を作り出すのです。

4 春のフライトの心構え

ここまで、春はビッグフライトが期待できる反面、強いサーマルに起因する危険性

が高い季節であることを述べてきましたが、ここで、私なりに心がけている春の心構えを紹介いたします。もちろん、春以外の季節でも当たり前のことですが。

1) 飛ぶ前に

・強風が吹く要素がないか、天気予報だけでなく、過去数日の局地風の傾向などを地元のパイロットやショップのスタッフなどに確認しておく。

・地上と上空で風向、風速に大きな差がないか、あらかじめ積雲のようすなどから確認しておく。(上下の風の差が大きいとサーマルの乱れが大きくなる。)

・レスキューパラシュートの手入れは十分に。

2) 上空で

・乱れすぎたサーマルには早めに見切りをつけること。

また、1つのサーマルの中でも乱れていない部分を探すこと。

・(ハングの場合)できるだけベースパーに身体を近づけるようなイメージで、重心を低く保つこと。

・強風の前兆に広範囲に注意すること。ま

た、ある高度でのみ吹く強風や局地風にも注意すること。

3) ランディングに向けて

・十分な速度を保ち、普段以上に「とられ」に備えたランディングアプローチを行う。

・できるだけ障害物の風下側に入らない。

・低高度でのターンはできるだけ避ける。

・ランディング場所を選定できるなら、石や乾いた砂地を避け、できるだけ草地を選ぶ。

・サーマルの一番活発な時間帯(12時~14時)にはできるだけランディングしない。

4) 日頃から

・何かあってもパニックに陥らないよう、セルフコントロールの訓練をしておく。

・日頃の行いを良くしておく。

この春もサーマルとうまくつきあって、無事故で良いフライトをしていきましょう。

内藤 邦裕 (ないとうくにひろ)

気象予報士。ウェザーニューズ社勤務。ハンググライディング歴16年。フライトを楽しむ一方、ハング・パラ大会の気象予報を数多く手がける。

春の事故

気象条件の急激な変化に注意!

春風が吹き始めると、人みな嬉しそうに見える(ひどい花粉症の人を除く)。寒さから解放されて、身も心も軽く感じるからだろうか。冬の間、縮こまっていたフライヤーも、思いっきり手足をのばして飛び始める。強いサーマルも期待できるし「よし、やったで!」と気合いが入る……が、くれぐれもご用心。春は気象条件の変化が激しく、変化のスピードについていけなかったための事故も多く発生している。楽しく春を満喫できるよう、気持ちを引き締めてフライトを。

◆気象条件の変化に敏感に

春は気象条件が激しく変化することが多い。いいコンディションだと思って飛んでいたのに、ランディング場に向かったら、ひどく荒れていて怖かった。そんな経験を持つ人は少なくないはず。

エリアに出発する前からフライトを終えるまで、ずっと気象条件をチェックするのは当然のことだが、春は特に意識して、一層きめ細かな観察をすること。急激な変化に対処するためには、少しでも早く変化の兆しをキャッチしなければならない。そして、これはあやしいと感じたら、スタコラサッサと逃げることも大切。「もう少しなら大丈夫だろう」という甘い判断が、事故を招く。

◆寒冷前線が近い時は諦める

風がただ強いだけでなく、寒冷前線がらみの突風などにつかまることが、春にありがち。ランディングアプローチに入り、高度を下げたところで突風に吹き上げられ、次

の瞬間には地面にたたきつけられる。突風は予測しにくいことが多く、字のごとく突然襲ってくる。いくら注意していても、多くの場合避けようがない。

よほどの強風でない限り、晴れた日にフライトを諦めるのは、難しい。しかし、寒冷前線が近いことがわかっているなら、最初から飛ばないことだ。どんなに優れたパイロットであろうと、自然に逆らうことはできないのだから。

◆サーマルも強烈

国内の長距離飛行記録は、どれも春に生まれている。田んぼに水が入る前で、不時着する場所がたくさんあるし、なんといっても強烈なサーマルが発生しやすいからだ。クロスカントリーを狙う上級者には、ありがたくもスリリングな季節だが、初心者にはハードすぎる。

フライトお預けが続いても「もうイヤだ!」と切れてはいけない。一人前のフライヤーになるためには、待つことも大切な経験だ。サーマルが弱くなるのを待ちながら、上級者の動き、空気の流れを「読む」トレーニングをしよう。

◆冬眠あけは特に注意

積雪の多いエリアでは冬の間ずっと飛べ

ず、春風とともに空に復帰する人もいる。冬眠から覚めたばかりのフライヤーは感覚が鈍っているので、気象条件の急激な変化に、頭や体がついていかない。

地上で生きるように作られている人間が飛ぶのだから、数カ月空を離れたら、空中感覚が鈍って当たり前。どんなベテランパイロットでも、冬眠あけは、穏やかなコンディションで「慣らし運転」を。

◆慣れない機体も要注意

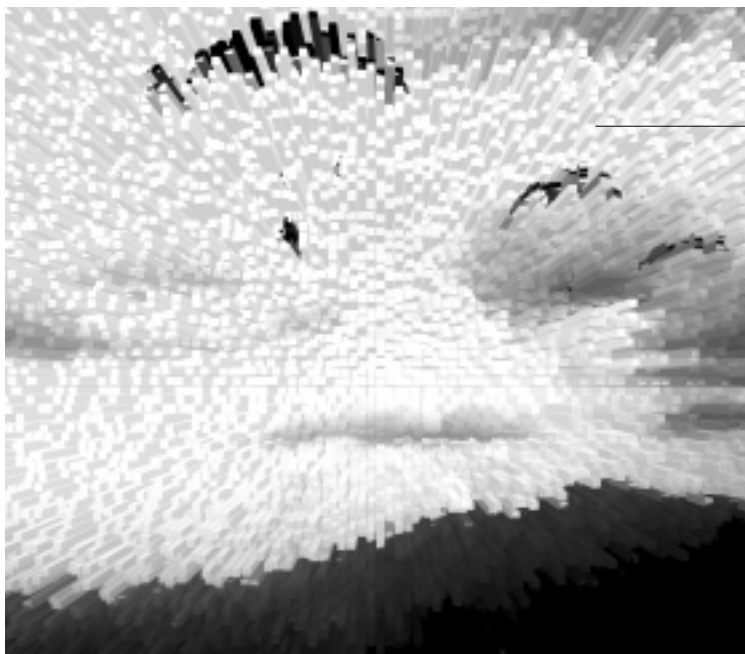
春は、新機種が多く登場する季節。念願叶って新しいグライダーに乗り換えた人は、積極的に性能を確かめたいと思うはずだ。しかし、慣れない機体では、コンディションの急変に素早く反応できない。機体特性をつかむまで、慎重すぎるぐらい慎重にフライトを。

◆気象条件の変化を読む

飛びながらコンディションの変化を知るために、煙突の煙などが参考になる。まっすぐ上にあがっていた煙が一瞬のうちに真横になったら、何分後に自分が飛んでいるところも風が強くなるか、計算する。煙が真横になるのは、秒速10mの風。1分に600m、1時間に36,000m(36km)進む。煙突までの距離が10kmだとすると、16~17分後には強風域に入るとのことだ。これで、何分以内に降りねばならないか、見当がつく。

地上では簡単な計算が、飛行中は難しくなりがち。いつもこの手の計算をして頭を慣らしておくと、いざという時にスラスラ答を出せるだろう。

ウッカリミスの防止策 ＝クロス・チェック



一昨年の5月に岐阜で、そして10月に熊本で、パラグライダーハーネスのレッグベルト締め忘れて尊い人命が失われた。その事故に続いて、昨年の11月、宮城でまたしてもレッグベルトに起因する事故で、尊い人命が失われてしまった。

上記の事故の中には、300m近くも落下している例がある。その時のご本人の恐怖、無念を思えば、実に胸が痛む。故人のご冥福を祈ると共に、残されたご遺族の上に慰めと励ましがあるように、心からお祈り申し上げたい。

これら三者に共通しているのは、全て教員やベテランパイロットだという事である。新人の間は緊張もしているし、周囲も気をつけて監視しているが、ベテランになればなるほど、周囲も安心し、自分自身も慣れきった手順で機械的に動作をしてしまいがちである。そこに乗じて「ウッカリミス」という恐ろしい悪魔の働きかけが忍び寄るのである。

この「ウッカリミス」の防止に関して、JHF安全性委員会 (JHSC) は一つの方法として「**相互の点検＝クロスチェック**」という対策を公式に打ち出しており、JHF教習

検定委員会の発行するパラグライディング教本 (A・B級課程) にも明記されている。

これはハンググライディングでは「ハングチェック」という名前が習慣化されている点検方法と同様のものである。つまり、自分の目で点検するだけでなく、他人の注意を活用して事故の防止にあたる……これは、同じような危険を伴うスポーツ、スカイダイビングや、スクーバ潜水、また軍隊の空挺降下では必ず用いられる手法である。そればかりでなく世間一般でも、重要な部分の点検確認は必ず複数の目で行う事がごく普通になっている。

『ハングはハングチェック、パラはクロスチェック』

JHSC はこれを声を大にして叫ぶものである。

クロスチェック (相互点検) の概要は以下の通りである。

- (1) 最初の「機材を装着しながらの点検」と、「テイクオフ直前の点検の間」に「フライヤー相互で点検」を行う。
- (2) 点検を受けるフライヤーが、点検して欲しい部分を一覧表などに従って声に出して読み上げる。

(3) 点検を行うフライヤーは、それに従って復唱しながら呼称点検を行う。点検を行うフライヤーは誰でも良い。

(4) クロスチェック一覧表

◇レッグベルト (は確実にセットされているか、引っ張って確認する)

◇胸ベルト (は確実にセットされているか、引っ張って確認する)

◇カラビナ (の安全装置は確実にロックされているか、指で押して確認する)

◇緊急パラシュート (の閉鎖ピンは確実にロックされているか)

◇その他 (カメラ、無線機、バリオなどの機材の脱落防止は良いか)

下の図のように、まず飛行機材装着時に点検し、次にクロスチェック、そしてテイクオフ直前に最終点検を行う。もともと装着時の点検と、フライトする直前の点検は誰でも行っている。クロスチェックとは、その中間に「フライヤー相互による点検」を行い、再度注意を喚起しようという事である。

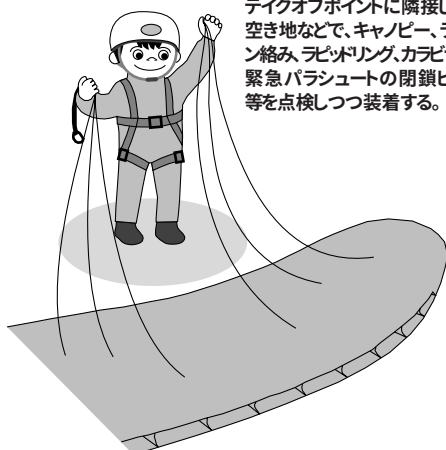
蛇足ながら、この点検方式はレッグベルト締め忘れを防止するだけのものではない。

『ハングはハングチェック、パラはクロスチェック』

これは、緊急パラシュートの不時開放、無線機やカメラなどの不時落下、ハーネスバックルの不完全閉鎖などの防止にも必要な点検の習慣である。

1 飛行機材装着時の点検

テイクオフポイントに隣接した空き地などで、キャンピー、ライン絡み、ラビットリング、カラビナ、緊急パラシュートの閉鎖ピン等を点検しつつ装着する。



2 クロスチェック

テイクオフ直前の点検との間に、フライヤー相互に点検を行う。フライトする本人が手順表を呼称し、他のフライヤーはそれに従って復唱しながら点検を行う。



3 最終点検

機体と共にテイクオフポイントに移動し、機体をライズアップさせる直前に、ラインの絡み、カラビナの装着、レッグベルトの装着、無線機やヘルメットなどの脱落防止は良いか、最終点検を行う。

より安全なフライトのために

昨年のJHF6月総会で「安全性委員会規約」の廃止が決まり、それにかわるものとして、7月理事会で「安全性委員会運営規程」案が承認され、8月1日から施行になった。委員の顔ぶれも公募によって一新した。JHF常設委員会のひとつとして活動を始めた安全性委員会（JHSC）は、より安全なフライトのために、従来のJHSC活動を継続して行っているほか、さまざまな新しいプランを持っている。

安全確保のための情報は、これまでの経験によって十二分に蓄積されているはずなのに、事故は減少しない。そればかりか、重大事故が続けて発生する。何故か。まず、蓄積されているはずの情報が、広く浸透していない。他者の経験や知識を自分のノウハウに加えれば、痛い思いをする前に危険回避できる可能性は高い。にもかかわらず、情報がフライヤーひとりひとりのものになっていないのだ。また「自分の安全は自分で守る」ことを理解していないようなフライヤーも、残念ながら存在する。

JHSCでは、このような現状を変えていくために、安全に関する情報を収集し、それを無理なく消化吸収できる形で提供することを大きな課題と考えている。陳腐な標語のようだが「安全はすべてのフライヤーの願い」だ。以下のような具体的活動方針を打ち出したJHSCの今後に期待しよう。もちろん、目の前に差し出されるものを待つだけでなく、安全なフライトのために、

いろいろな意見を出してほしい。

ご意見は、JHF事務局内のJHSC事務局まで、ファクスかEメールで。

FAX：03-5840-8312

Eメール：jhf@skysports.or.jp

■ JHSC 具体的活動方針（抜粋）

＊黒丸数字は今期の重点事業

1. 従来からの継続活動

- ①全体会議
- ②機体・機材等の安全性基準の制定と施行
- ③型式登録審査制度の実施
- ④事故報告・調査制度の実施
- ⑤安全性に関する情報、意識の向上を図るための活動

2. 「従来からの継続活動」を発展させるための活動

- ①型式登録審査制度の内容の充実と手続きの簡略化の検討作業
 - ＊型式登録審査制度の趣旨の明確化。内容をさらに「フライヤー＝ユーザー」の視点に立って充実させる。
 - ＊審査手続きの電子的処理化の検討
- 事故報告・調査制度の充実と促進のための活動
 - ＊集大成作業（白書を含む）。
 - ＊県連・エリアへの、事故報告・調査の協力要請と情報提供を安全講習会などとあわせて行う。
 - ＊事故報告書の改訂と、事故報告・調査

マニュアルの作成

- 3「(改善) 勧告」、広報・宣伝活動
 - ＊ホームページの充実や、取材への対応など。

3. 新構想の活動

- ①小委員会、他の常設委員会との合同会議
 - JHSC 救急法・安全講習会
 - ＊クロスチェック等の安全確保法や、頸椎損傷が疑われる場合を想定した気道確保法と心肺蘇生法の理解・普及。
 - 安全性を確保するために暗黙知を形式知に変換する諸作業
 - ＊エリアの安全確保策の調査・研究と、JHSC モデル基準の提示
 - ＊エリアの気象情報収集・活用法の調査とモデルプランの提示
 - ＊微気象判断のガイドブックの作成
 - ＊安全フライトの知識・技術の体系化
 - ＊「パイロットのための」実技セミナー
 - ＊『JHSC 着水手順参考案』の作成
 - ＊『「ツリーランディング」脱出・救助法と器材活用法参考案』の作成

p JHSC 活動の趣旨による表彰活動

- ＊安全確保に取り組むエリア、長年にわたって安全フライトを実践してきたパイロットの紹介と表彰
- ＊事故防止対策の公募、紹介（表彰）
- ◆より詳細な全体構想やJHSCの理念・観点は、JHSCホームページ等に掲載します。JHFホームページの「委員会のページ」を。
<http://jhf.skysports.or.jp/>

JHF安全性委員会 事故調査報告

昨年発生した2件の同一機種同一サイズハンググライダーの事故に関し、JHSCとして出来る範囲内で調査を行い、それに基づきわかったことを以下に報告する。

◆事故の概要

【No.1】

事故日時：2000年3月12日15：20頃
発生場所：和歌山県紀ノ川フライトエリア
パイロットA（ハンググライディング歴10年、JHFパイロット証）

【No.2】

事故日時：2000年5月3日14：15頃
発生場所：福岡県耳納エリア
パイロットB（ハンググライディング歴21年、JHFクロスカントリー証）

◆ No. 2 事故聞き取り調査

調査日時：2000年7月23日14：00～16：30
場所：福岡県耳納クラブハウス
聞き取り者：JHSC
被聞き取り者：事故者（パイロットB）所有
技能証HG-XC証、経験21年

事故当日（2000年5月3日）は北北西、3～4m/sの風。良いサーマルコンディションで、荒れている状況ではなかった。フライト中にブローで7m/sぐらい入る程度になったが、フライトしていた他のフライヤーも荒れているとは思っていない。

テイクオフは13：00～13：30の間。本人のテイクオフの前後にパラグライダーが1機ずつテイクオフしている。テイクオフ後1時間あまり経過したときに、テイクオフポイントの真ん前、1kmの地点（玉山の真上）、テイクオフ地点より約100m低い位置でサーマルヒット。比較的大きな半径の左旋回でセンタリング。

約400mゲイン（ランディングから1000m）したところで一瞬（1秒程度）ノーズがちょっとアップ。本人は何も操作をしなかったが、その後すぐに左前方にノーズダイブ。いつものサーマルをはずしたときと同じと思ひ様子を見る（ひっくり返ってはいないと本人は言っている）。すると急旋回に入り、立て直そうとしたがとまらず、パ

ラシュートを投げる。すぐに開傘。ツリーランディングで本人は無事。

◆考察

事故機No.1およびNo.2を調査してわかったことは、共に非常に良く似た破壊形態であること。すなわち同じような原因で破壊したと考えられる。

事故機No.1の事故報告書から、機体の破壊は機体がひっくり返った後に起きており、機体がひっくり返った時のマイナスGで破壊したと思われる。従って、事故機No.2の場合も、パイロット本人は自覚していなかったが、機体がひっくり返って、破壊したと見るのが妥当だと思われる。また、リーディングエッジの破壊した部分を良く見ると、No.1、No.2どちらも左側の方がねじれによるものと思われる破壊形態が強く出ている。このことから、先にクロスバーが破壊（共に左のクロスバーが破壊しており、右側は破壊していない）し、その直後あるいは同時にリーディングエッジが破壊したものと思われる。

県連だより



ソアリングを楽しむのに絶好の条件

栃木県ハング・パラグライディング連盟
理事長 谷田 重雄

■栃木県の特徴

栃木県は、関東地方の北部にある内陸の県です。東北自動車道・東北新幹線などが整備され、首都圏からの交通の便も良く、東京から、電車・車のどちらも約1時間から1時間30分くらいで来られます。また、仙台方面からも約3時間で到着となります。

気候は、内陸にある海なし県のため、気温の年較差や、日較差が大きく、また、太平洋側にあるので、冬は乾燥した晴天の日が多くなります。寒さはかなり厳しく、山地から吹き降ろす冬の季節風が「那須おろし」などと呼ばれ、夏は雷雨が多いことが特色となっています。こう書くと、生活するには厳しそうですが、これだけ寒暖の差が激しいという事は、実は、私たちがスカイスポーツでソアリングを楽しむには、絶好の条件が揃っている場所でもあるのです。良質のサーマル(熱上昇風)が豊富に出るのはもちろん、冬型の気圧配置の天気予報がでても、寒気が栃木県以北にあるようなら、日光連山が北風をブロックし、ほどよい南風が回

り込んで入ってくる事が多く、冬場のフライト確率を上げています。また、夏場に雷が多いということは、暖まりやすく、熱上昇風が出やすい、ということになるのです。

この恵まれた場所に、どんなエリアがあるのかをご紹介します。

〈県北地区〉

○烏山……………

スカイトライアル(PG/HG/MPG)
栃木スカイスポーツクラブ(HG)

〈県央地区〉

○赤岩山……………

スカイパーク宇都宮PGスクール
DKスカイジム宇都宮PGスクール

○羽黒山……………

栃木スカイスポーツクラブ(HG)

〈県南地区〉

○大平見石山……………

スカイパーク大平(PG)

○みかも山……………

みかも山ハングパラグライダークラブ

○佐野エリア……………

DKスカイジム佐野(MPG)

以上、どのエリアも目の前に関東平野が広がり、もちろん眺めが良く、私たちに爽やかなフライトをもたらしてくれます。

■栃木県連盟の活動

栃木県連盟は、現在会員約170名、役員17名で活動しており、主な活動内容として、
○ハング・パラとも一緒に楽しめる大会を毎年開催

○パラグライディング日本選手権予選会開催(県代表を決定します)

○助教員検定会開催(2000年は10名合格)

○県連ホームページ2001年開設予定などがあります。

■ニュース!

2001年のハンググライディング日本選手権が茨城県で開催されますが、栃木県代表として、谷古宇瑞子選手を推薦する事が決定しました。谷古宇さんは、昨年女子ハンググライディング世界選手権にも出場したベテラン。なお、パラグライダーで昨年Jリーグ女子1位になった水沼典子選手も栃木県連盟所属で、2001年世界選手権日本代表として出場する予定です。なんと、2人は高校時代のクラスメートだとか。今後の活躍に期待しています。それにしても、女性が強い栃木県。

■栃木県連へのお問い合わせは下記まで。
TEL.028-652-6503(スカイパーク宇都宮内)



宇都宮のエリアにて(上の写真も)。



助教員検定会。昨年は10名が合格。

JHF 役員選挙立候補者一覧

理事候補 朝日 和博 アサヒ カズヒロ

秋田県ハング・パラグライディング連盟推薦



JHFは自由飛行を守るためになくてはならない組織です。一般社会の人々の理解をいただき、楽しく自由に飛ぶ。これこそフライヤーが求めている究極のものであります。そして将来に渡ってこの素晴らしいスカイスポーツを保ち続けたいものです。そのためにJHF

は存在するべきものです。しかしながらJHFの現状は、高い目標を掲げていながらも、残念ながらまだそこまでは達していません。

そこで、JHFをより一層充実させるために、微力ながらもお役に立てるのではないかと思います、ここに立候補いたしました。

特に、自分自身が土、日、祝日を中心とした一般フライヤーであり、そこを立場としてJHFのあるべき姿を考え、それを構築していくようにしたいと思っています。

理事候補 伊賀 隆一郎 イガ リュウイチロウ

香川県ハンググライディング連盟推薦



ハンググライダーに関心を持ち、スクールへ入り練習生となって以来、未だ13年現在52才の年齢をもまるで気にせず、ますます空の魅力に取りつかれ、毎週毎週いそいそと山へ出かける日々を送っています。

しかし近年週末に山へ集まる仲間は、その数をめっきり減らし、当香川県においても、四国4県を見ても10年前にあればほどいたフライヤーはどこへ行ったのか、と首をかしげたくなる現状です。

JHFでもフライヤーの減少傾向には早くから危機感を持たれ、普及、振興に力を注いでこられた結果、若い練習生も徐々に数を増やしていますが、かつての賑わいを取り戻すには至っていないようです。

又、先日より開始された、教員更新更講習会もすばらしい企画ではありますが、交通、宿泊費自己負担で数日間拘束されるとあって、ローカルのあまり利益の出ていないスクールの教員にとっては、参加をちゅうちょし、更新をあきらめるという声も出ております。

日々惴然と心晴れやらぬ所を持っておりましたが、先日ある役員の方より、JHFの理事として取り組んでみては、とおさ

そいを受け、及ばずながら協力できるなら、と立候補を決意いたしました。

この楽しい空のスポーツが世間の人々にもっと身近になり安全で健康的と認識され今後増々盛んになるよう、常にローカルの立場で考えてゆきたいと思ひます。

先ず何を行うにも、自分自身勉強する事が第一であるのは、言うまでもありませんが、全国のフライヤーの皆様には背中を押していただければ幸いです。

理事候補 関谷 暢人 セキヤ ノブヒト

東京都ハング・パラグライディング連盟推薦



この度、平成13年度JHF役員選挙にあたり、立候補いたしますので意思表示いたします。1978年に大分県で始めて知ったハンググライディング。その時の感動は今も絶える事はありません。その情熱は1980年の就職活動まで影響してしまい、HG事業の世界に入り現在

まで22年間続いております。当時は文字通り「安価・簡単・自由」に飛べる道具を自分なりにもっともっと進化させたい、多くの人に知ってもらいたい、飛んでもらいたいという気持ちで普及を考えておりました。そして1992年頃から安全に楽しく大空を満喫するには指導力の向上が必要と思い教習検定委員会に参画するようになり、更なる普及を求め1996年に役員を務めるようになりました。

これまでの普及活動を生かす為にも、また残されている課題の実現化、更に新たな普及活動の模索の為に、「継続は力成り」と思い3期目の立候補を決意いたしました。過去の役員活動においては大きな結果は残しておりませんが、これまで理事会・各委員会活動が滞る事なく運営されてきた事が成果だったと自負しております。

この度の選挙にて当選した際には、「ハンググライディングスポーツを一般社会に浸透させる」を目標に普及活動したいと考えております。具体的には「国民体育大会への参加」です。HG・PG人口も2万数千人とはいえ、公式イベントでの採用はまだ実現していません。(一度神奈川国体でデモ競技されております)JHFも法人となり、次は公式競技会です。そうならば機材も指導・フライト技術も相乗効果で向上し、結果として普及されます。

以上簡単ではございますが意思表示とさせていただきます、平成13年度役員に就任できますようお願い申し上げます。

理事候補 瀬戸口 裕郎 セトグチ ヒロオ
香川県ハンググライディング連盟推薦



頭上に広がる真青な空。眼下に広がる緑の大地。天地の間をゆっくりと流れる刻。

広い視野に立って社会を見、そして現実の場へと確実に戻ることの大事なことを教えてくれるスカイスports。

自分の殻に閉じこもっている人、将来に不安を持っている人等誰でも大勢の人にこの充実感と壮快感を感じてもらいたい。にもかかわらず昨今フライヤーの減少が著しく思える。なぜこの様な状況に陥ったのだろうか。

まずひとつに閉鎖性

独占意識が強く、協調性に欠けていること、利害がからむのは仕方ないとしても、同じく「空を飛びたい」との思いがあるのなら友好的な態度が取れないものか。どうしてか外のグループを排除したがる。全てがそうだとは言わないが誠に残念である。

スカイスportsは一部の者にしか許されているものではない。等しく共有し充分に活用しなければ存在意義をさえ失われる恐れさえるのではないだろうか。

そして広報の消極性。

この二年程県連盟でお世話をさせていただいていますが、フライヤーの無感心とひとりよがりの行動が多々見受けられます。一重に県連を含めJHFの活動がいまひとつ足りないと思える。

組織の存在を広く世間に知らしめ、構成員への働き掛けをもっと大胆に行う必要を感じます。単なる利益代表の団体ではなく社会的な地位の向上を目指すべきであると考えます。

さらに地方と中央の意識のずれ。

地方にあっては中央との意志疎通が難しくなって来ています。地方の現況を知って頂くこと、中央の状況をより早く地方組織へ降ろし全体の活性化を計ることこそ最も必要な勝機になっていると考えます。

地方の現況を知って頂くためと、もっと楽しく有意にスカイスportsの発展を願い、沙小などお手伝いできれば幸いに思います。

理事候補 田中 美由喜 タナカ ミユキ
東京都ハング・パラグライディング連盟推薦



JHFの理事として選任していただき、早2年が立ちました。この間、日本のスカイスports発展の為、JHFの発展の為という観点にて仕事をさせていただきました。パラグライダーインストラクター、競技者としての長年の経験、海外とのつながりを活かすことが私の使

命と考えております。

平成11年には、教員の為のセフティセミナーを開催し、又12年度の事業のセフティセミナーの為に、DHL（ドイツハンググライディング連盟）の技術部主任との関係により、直接DHL 技術部門の主任と専門員の招待が実現しました。

ハンググライダー、パラグライダーともに進化しつづけており、世界での愛好者、国が増えています。道具の進化、安全性に関しての進化、新しい安全規格等々、日本として対応していくべきことが大変多い現状と思います。世界で最も多くフライヤーを有する日本であるという視点に立ち、JHFの発展を支えていくことが私の仕事と思います。

●スクールインストラクターへの安全に関する情報提供、指導方法に関する情報提供、研修。

●助教員、教員の育成

これらを柱として、JHFと県連のラインをより太い結びつきとなるよう、中間に立って仕事を進めていきたいと考えています。パラグライダーのプロであるという立場を、最大限活かし、JHFでの仕事をしていく所存です。

よろしくお願いいたします。

理事候補 長谷川 光雄 ハセガワ ミツオ
東京都ハング・パラグライディング連盟推薦



フライヤーが雑談しておりました、と、その中のあるフライヤーが言いました、JHFって何？、JHFはパラグライダーの団体じゃないかな、隣に居あわせた別のフライヤーが言いました、あゝP証なんかを出しているところね、こんなフライヤー同志の会話を近くで

聞いていました。

まだフライヤーのなかにはJHFは技能証の発行団体位とし理解していない方々も居るということです、私も最初に技能証を取得した頃（もう14～15年前になるかと思いますが）を思い出して見ると、そのようなイメージであったと思います。

これからの社団法人日本ハンググライディング連盟(JHF)のあり方は、パラグライディング、ハンググライディングの我が国における唯一の代表機関として、国内はもとより、国際的にも信頼され、かつ、フライヤーの皆様を初め、インストラクター、スクール関係者、業界関係の皆様、全てに、もっともっと身近な関係機関でありたいと思っております。

そしてこんなに楽しい、こんなにもスバラシイ、スカイスportsのパラグライダー、ハンググライダー、をもっともっと大勢の皆様に楽しんで頂きたい。

そして年々少なくなる、フライヤー人口の減少傾向に歯止めを掛け、ますます我々の仲間のフライヤーを増やし、安全で楽しいフライトのお手伝いが出来れば、又、少しでも都道府県連盟を始め、スクール、インストラクター、フライヤーの皆様のお役に立てればと思い、立候補させていただきました。

理事候補

藤野 光一 フジノ コウイチ

富山県フライヤー連盟推薦



私がJHFの理事に立候補したのは、フライヤーにとって一番身近な組織であるはずのJHFが、実はそのようには感じられず、一般フライヤーの思いや声がなかなか反映されていないと常々感じていたことによります。

私は、パラグライダーを始めて十年目になりますが、この間JHFは社団法人になり、各県連盟も発足し、フライヤーの為の組織としての形は整えられたかもしれませんが、そこにはまだまだ多くの問題を抱えていると思います。例えば、県連とJHFとの関係や、フライヤー会員とJHFとの関係、フライヤー会員と県連との関係など、私にはそれぞれの関係が非常にわかりにくいものに見えます。また、JHFが一番目指す事柄が何であって、どんなビジョンを持って活動しているのかも、私のような一般フライヤーには良くわからないのが現状です。

こう言った問題は、組織の形造りを急ぐ余り、実際の現場の声や意見が十分に聞けなかったことが要因ではないかと思っています。

私が大切にしたいことは、「現場の方々やフライヤーの声」を如何に吸い上げ、それを具現化して政策にするかという点です。フライヤーの減少等が叫ばれていますが、フライヤーを生み出す素となるのは現場であるエリアであり、そこにあるスクールであり、またそのフライヤーが活動し根ざすのもエリアやクラブであると思います。こういう方々や、そのエリアのある地域の方々、行政等も含んで、JHFをより身近に感じてもらえるような関係作りをしなければならぬと考えています。それを実現する為には、県連の機能や役割や位置付け等も再検討する必要があるでしょうし、また、いろいろな方々の意見も聞く必要もあるでしょう。しかし、それこそが物事を推し進める者の最も基本的な事柄であると思います。

現場の関係強化を重点とした活動を展開して行きたいと思っています。

理事候補

松永 文也 マツナガ フミヤ

埼玉県ハング・パラグライディング連盟推薦



99年から2年間理事の任期を務めさせていただきました。その間フライヤー登録のフライヤー会員制度への移行、事務局の移転、新規事業の開始など様々な変化に立ち合い、またその一部については微力ながらお手伝いさせていただきました。しかしながら残念な

事に今回の任期の内には、それらのもたらす結果を目にする事は出来ず、又中にはこのまま放り出してしまうれば事業のコンセプトそのものが失われてしまう可能性のあるものも有ります。それらの未だ未完成的な変化を真に効果の有る実り多い結果へとつなげていくためには少なくとも後一回の任期は必要であると考えました。

減少を続けてきたハング・パラグライディング人口はここに来てようやく底を打つのでは無いかという兆しを見せています。むこう数年以内には安定したスポーツ人口とそれに見合った事業規模、政策が見えてくるのではないかと予想しています。その変化とその結果を見すえ、調和の取れた連盟運営に資する事が出来るよう微力でもお手伝い出来ればと思います。今回立候補する事と致しました。どうか宜しくお願い致します。

理事候補

宮川 一郎 ミヤカワ イチロウ

東京都ハング・パラグライディング連盟推薦



ご挨拶は省かせていただき、立候補の動機を申し述べます。あと2年間でフライヤー会員制度への移行が完了しますが、それによってJHFの財政基盤も変化し、諸制度をも変更してゆくこととなります。その流れをサンデーフライヤーの視点で見届け、疑問点を明確

化し、正すべきは正すため、理事会で発言したいからです。

昨年4月に東京都連事務局長職を引き継ぎ自宅を事務所に事務局業務を行なってきました。1年間の約束で財政健全化が主な課題でしたが、事務仕事は自分で行ったことで、一定の成果は出せそうです。しかし、JHF理事会の議事録を点検する内に、フライヤー、エリア、スクール、各県連の置かれた状況を十分考えずに案件が動き出すのに不審の念を抱きました。それが端的に現れたのが、P証ナンバーの省略、同証のスクール一括送付の中止などの問題と考えます。これからは、上意下達とも考えられるJHFの体質改善が必要でしょう。

最後に、私自身のフライト歴を述べて、参考とします。1987年夏、仏・シャモニーへ氷河スキーに行き、パラグライダーを実見。1988年、伊豆のスクールでB証取得。1989年春より神奈川県・矢倉岳エリア。P証取得。同エリアに足柄山スカイクラブが発足後、エリア閉鎖に至るまで広報担当役員を担当。1995年1月、同クラブの友人が群馬県・榛名エリアでスクールをオープンしたため、無給にて2年3ヵ月間、主に講習バーンでの教習を担当しました。クラブエリア育ちで、自由で楽しい雰囲気が重要と考え続けてきました。以上

理事候補 宮田 富由 ミヤタ トミヨシ
神奈川県ハング・パラグライディング連盟推薦



フライヤーのみなさまはじめまして。
 この都度 JHF の理事に立候補しました
 宮田でございます。

私が JHF の理事に立候補するきっかけとなりましたのは、神奈川県連の要請を受けたことです。

私は一般フライヤーとして、過去に JHF の調査統計委員会で4年間委員会活動をしておりました。

現在は神奈川県連盟の副理事長として、また、サンデー教員として活動しております。

それから一般の方々にスカイスポーツに触れてもらい楽しんでもらう普及活動を行っております。

私が理事に立候補致しましたのは、今までの経験を活かし、もし理事になりましたら、次の事を一番に考え JHF で活動を行っていきたくて考えております。

1 一般フライヤーの処遇

このスカイスポーツの世界も一般フライヤーが居てのものだと思います。一般フライヤーが楽しく安全にフライトが出来るような処遇を考えていくことが一番大切だと思います。

2 普及活動の推進

スカイスポーツの世界はまだ社会的に認められていない部分が多いように見えます。スカイスポーツを一般の多くの方々に理解してもらうことが私達の課題だと思いますので、普及活動を推進することが重要ではないかと思ひます。

3 都道府県連盟の支援

JHF の活動の主体は都道府県連盟ではないでしょうか。活動の主体である都道府県連盟が活動しやすいように支援をしていくことが都道府県連盟の活動の向上につながっていくのだと思ひます。

以上が私が理事になった場合には、このことを一番に考えて JHF で活動をしていきたくて思ひます。

理事候補 横尾 和彦 ヨコオ カズヒコ
埼玉県ハング・パラグライディング連盟推薦



3期の理事会に関わり、それまで事務局の、理事の立場で考え、行ってきたことが果して正しかったのか、本当に皆のためにやっていたのか疑問を感じ、昨年9月末で職員を退職し、ふつうの目で各種の行事に参加して参りました。その結果、考えるところあり、新たな

基準指針をもって以下の反省を踏みに、具体的公約を掲げて再度、理事に立候補致します。

いままでの反省点

- 1 公正に選挙された理事として11名が等しい責任と権限であることの認識に欠け、一部の役員に責任負担権力が集中し、公平な運営力が育たなかったように思われる。
 - 2 JAA からフライヤー登録の移管には成功したものの、その急激に拡大高額化した予算の使途が計画的長期的であるとは思えない。
 - 3 理事各人の信頼に基づいた結束力の低下が著しかったように思われる。もって事業計画の遂行完遂に問題点を残した。
 - 4 物理的な変更、フライヤー登録証技能証発行コンピュータシステム等にはかなりの資金を割いて変更を急いだが全国の正会員スクールフライヤーとの信頼関係といった一番大切なものを見落とさなかったか。
- 施策の方向（公約）**
- 1 愛好者の増加を図り、育てているのは教員・スクールであることを正しく認識し、教員・スクールへの支援を積極的に行う。
 - 2 正会員との相互理解を深め、より強調する為全国各地へ理事が出向き、JHF の理念、方向性等について正会員理事らと話し合う場を持つ。
 - 3 PGHGの愛好者数の違いを冷静公平に判断し、各分野に適正な事業を検討、人数に比例配分した予算を組み立てる。
 - 4 このスポーツの発展社会的認知は競技選手の活躍にある。選手育成強化予算を割り、社会にアピールする。
 - 5 事務局の最重要業務は総務業務である。

監事候補 宮川 雅博 ミヤガワ マサヒロ
愛知県フライヤー連盟推薦



1997年4月から、当連盟の監事を務めてまいりました。

社団法人に類似した商工会に20年余勤務し、そこで培った知識を活用して監事の務めを果すべく努力してまいりました。

今後もお役にたつことができるのではないかと思います、再度立候補いたします。

県連ニュース

■宮城県ハンググライディング連盟

【只野直孝氏の講演会の報告】

11月25日に「こころのフォーラム・237」が同フォーラム実行委員会・宮城県教育委員会の主催で開かれ、「みやぎ夢大使」でもある只野直孝氏を迎えて講演会が行われました。「少年よ、こころとからだに翼を持って」という演題のもと、ビデオや写真を使い、冒険的なスポーツの面と空を飛ぶことの楽しさを約1時間にわたって熱演していただきました。会場を満員にした500人の参加者は只野氏の話熱心に聞き入っていました。

〔記：今井政秀〕

■東京都ハング・パラグライディング連盟

【都連理事への立候補のお願い】

来年度総会は、任期満了による理事改選が議題となります。当期理事会は民主的運営に意を尽くしたいと思い、運営への評価は会員皆様のお考えをより多く反映したものと、役員構成もそれに平行したものとすべきと考えています。都連の運営についてお考えのある会員の積極的な貢献をお願いいたします。来年度5月の総会まで十分な期間がありますので、理事に立候補する意思をお持ちの方は、ぜひとも事務局までご連絡ください。よろしく願います。

都連事務局 TEL・FAX.03-5490-1129

〔記：宮川一郎〕

■京都府フライヤー連盟

【府連からのお知らせ】

昨年は、スカイスポーツにおける暗いニュースが多く飛び込んで来ました。同じスカイスポーツを愛する者としては大変残念に思います。府連では、もっと多くの人にスカイスポーツのすばらしさを知ってもらうために今後も体験イベント、大会等を計画し安全面にも配慮して誰もが楽しめるスカイスポーツの振興に努力して行きたいと思っています。あわせて、府連の活動等を積極的に報告して行きたいと思っていますので、今後も皆さんの暖かいご支援を宜しくお願いいたします。TEL・FAX 0772-22-8469

E-mail:tmhang@mb.infoweb.ne.jp

〔記：村上 敏明〕

■宮崎県ハング・パラグライディング連盟

【岡山県の野上誠一さんの宮崎県尾鈴エリア滞在記】

本県に滞在してエリアを満喫している、岡山県の野上誠一さんの滞在記をご紹介します。ぜひ、皆様も宮崎県に飛びにいらしてください。

『「ウチに泊まってもいいよ。」と言われた。1月中旬だった。「そうさせてもらいますよ。」と答えた。ズルズルと桜が咲くまで2ヵ月居候した。去年のことだ。「ブー、ブー」外で豚が鳴いている。この家は養豚業を

やっている。宮崎県の川南町にある、尾鈴クラブ会長の自宅である。クラブ員は15名程だが、他のフライヤーにも農業従事者が多く、平日でもフライトエリアに人が集まる。だから、フライトパートナーを探す必要が無い。農業地域なので食材が安くて美味しい。その他の利点を挙げると、以下のことがある。

1. 現在エリアフィーがいらないので、滞在費が安い。(ただし、個人の満足度に応じて支払う)
2. 冬型の気圧配置になり、寒気が南下すると、ここは快晴になる。そして、尾鈴の山脈がウインドシャドーを作りシャドーサーマルが発生する。ソアリング確率が高くなる。
3. 冬型が弱くなり始めると20km 続く尾鈴の山並みを利用してクロカンが可能となる。
4. お寺で修行ができる。

テイクオフは海拔430m、ランディング高低差は270mというエリア。真冬の時期は今までスキー等のスポーツをしていたが、真冬でもほとんど毎日楽しめるエリアがあることを発見し、うれしい思いである。

真冬のベストエリアが外にもあれば、紙上でも教えてください。来年の冬は、ぜひ私が訪問させていただきたいと思います。』

このニュースについての問い合わせは、E-mail:nao_jwz@yc4.so-net.ne.jp

〔記：金丸直美〕

カレンダー

〔陽〕は開催地、〔国〕は連絡先です。予定は変更になる場合がありますので、お出かけの際は事前に必ずご確認ください。

3月

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20 春分の日	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

4月

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 振替休日	24	25	26	27	28	29 みどりの日

■HANGGLIDER関西選手権2001

2月22日～25日 〔国〕和歌山県那賀郡粉河町 紀ノ川フライトパーク 〔国〕関西選手権実行委員会 TEL.0729-86-2000

■パラグライディングセイフティセミナー

3月1日・2日 〔国〕東京都港区航空会館会議室 〔国〕JHF事務局 TEL.03-5840-8311
*参加申し込みは締め切りました。

■Oshino Rigid Open (HGクラス2)

3月3日・4日(5日予備) 〔国〕山梨県忍野村 子山エリア 〔国〕大会実行委員会、町田重幸 TEL.0555-84-7561

E-mail:victory@saturn.interq.or.jp

*FAIカテゴリー2大会の予定。参加にはスポーティングライセンスが必要。
*世界選手権出場選考大会

■第5回全日本学生ハンググライディング選手権

3月6日～8日 〔国〕茨城県八郷町板敷山エリア 〔国〕実行委員会代表、牧野祐一 TEL.043-250-1320
E-mail:makino@juno.dti.ne.jp

■PARAGLIDER STUDENT FESTIVAL!!

3月12日～15日 〔国〕茨城県八郷町足尾山エリア 〔国〕実行委員会事務局、舟橋義久 TEL.090-9768-4912
http://birdmanyuki-id/hoops.ne.jp/F-1.html

■JHF3月定例総会

3月13日 〔国〕東京都羽田空港ターミナルビル 「ビッグバード」ギャラクシーホール 〔国〕JHF事務局 TEL.03-5840-8311

■Cooスプリングカップ(PG)

3月17日～20日 〔国〕茨城県八郷町エアパークCoo 〔国〕大会実行委員会 TEL.0299-44-1408

*FAIカテゴリー2大会の予定。参加にはスポーティングライセンスが必要。

■2001ハンググライディング日本選手権 IN 八郷

3月18日～24日 〔国〕茨城県八郷町板敷山エリア 〔国〕大会事務局、大澤豊 TEL.0299-43-6952(夜8時まで) *FAIカテゴリー2大会の申請は取り止めました。

■2001足尾山オープンカップ(HG)

3月31日・4月1日 〔国〕茨城県八郷町・真壁町 足尾山エリア 〔国〕フライングクラブどじがらす、日下部はく TEL.0299-44-0889
E-mail:haku@tomato.saino.ne.jp

■風の聖域カップ2001(PG)

4月7日・8日 〔国〕岡山県大佐山エリア 〔国〕大会実行委員会 TEL.0867-98-3400(N.C. おおき内)

■第13回ゼロカップ(PG)

4月7日・8日 〔国〕鳥取県河原町霊石山エリア 〔国〕(株)ゼロ TEL.0727-53-8890
FAX.0727-53-8830

■2001らいちょうバレーカップ(PG)

5月3日～6日 〔国〕富山県らいちょうバレー 〔国〕大会実行委員会 TEL.03-3608-8626(アエロタクト内) *FAIカテゴリー2大会の予定。参加にはスポーティングライセンスが必要。

■ハンググライディング世界選手権

6月15日～7月1日 〔国〕スペイン

■パラグライディング世界選手権

6月17日～7月1日 〔国〕スペイン

■2001ホルンバレーカップ(PG)

9月1日・2日 〔国〕長野県山田温泉スキー場 〔国〕大会実行委員会 TEL.03-3608-8626(アエロタクト内)

委員会の動き

PG競技委員会 委員長 曾我部 真人

2001年度のルール改正や登録業務の変更で登録選手へのアナウンスが大幅に遅れてしまったのですが、登録業務が開始され、選手の皆さんからの登録が始まり一安心といったところです。

これから、6月に予定されている世界選手権に向けて選手選考、チームリーダーを軸とした日本チームの結成が行われます。日本チームの選手の頭の中はスペインに向けて始動し、周りはそれを応援するムードが高まっています。それと同時に進行で次に向けてFAIカテゴリー2大会の推進、2002年度の日本選手権開催地の決定、春の公認大会（ジャパンリーグ、SPS、公認大会）の申請が届いています。

年明けからパラグライダーにとってあまり良い気象条件というものが無く、寂しい21世紀のスタートですが、春の大会シーズンが良いシーズンであることを祈ります。

HG競技委員会 委員長 大澤 豊

新しい世紀、2001年シーズンが始まりました。6月にはスペインで世界選手権が開催されます。クラス1の日本チームメンバーが決まりました。大門浩二、外村仁克、平林和行、峰岸正弘、氏家良彦、太田昇吾です。補欠メンバーとして山本貢、富原淳、大沼浩。クラス2はまだランキングシステムが確立していないので、選考大会を開催してゆく予定です。どしどし参加して世界を目指してください。

2001年のハンググライディングシリーズの新ルールをホームページに掲載していますので、よく読んでご理解ください。大会は全選手が新ルールを把握していることを前提に開催されますので、不明な点などがある方は、事前にお問い合わせください。

近日開催のハンググライディングシリーズは、2月22日～25日の「HANGGLIDING関西選手権2001」、3月18日～24日の「2001年HG日本選手権in八郷」が予定されています。また公認大会開催は、3月3日・4日に「Oshino Rigid Open（世界選手権選考大会）」、3月5日～9日に「第5回日本学生ハンググライディング選手権」、4月7日・8日に「2001足尾山オープンカップ」が予定されています。詳細はホームページに掲載しています。

尚、事務局にメールをくだされば競技委員会インフォメーションをお送りします。HG競技委員会事務局
FAX.0299-44-1346
E-mail:haku@tomato.saino.ne.jp
http://tomato.saino.ne.jp/~haku/JHF-HG.html

教習検定委員会 委員長 小野寺久憲

教習検定委員会では、PG教本の一部訂正作業を行っています。すでに、表現が不適切と思われる箇所をピックアップしていま

すが、会員の皆様においても、お気付きの点がありましたらJHF事務局までご連絡いただくようお願いいたします。

また、教習検定委員会のインターネットホームページ作成を準備中。ホームページの公開は3月上旬頃になる予定です。

補助動力委員会 委員長 山崎 勇光

15年ほど前の秋、草刈り機のエンジンを改造し、直径95センチのプロペラを3000回転ほどまわして茨城県東海村の砂丘を離陸して、千葉県銚子の犬吠埼を目指して飛び立ったところ。那珂湊の漁港上空で、ドーナツ型の雲ができており、真ん中を飛び抜けなさい、とばかりに呼んでいる。空の門のようである。雲を抜けると、二層になった雲が海岸線にそってレールのように遥か銚子まで続いている。まさに雲道(?)である。大洗の海岸線にはイルカの親子だらうか、5、6頭が幸せそうに戯れていた。私は爽やかな北東の風の中、犬吠埼へ機首を向けた。

大空の楽しみ方には様々な方法があります。それを広く上手に伝えるための事業を中心に、これからも活動していきます。

制度委員会 委員長 小林 秀彰

制度委員会では、現在わずか2名で下記の事項に取り組んでいます。

全国フライヤーのために一肌脱ごうという方、ぜひ制度委員に応募してください。

■2001年度制度委員会事業計画

●理事会からの諮問事項

〔諮問事項1〕JHFフライヤー登録による都道府県連盟の規約案作成

〔諮問事項2〕優良パイロット表彰制度の検討

〔諮問事項3〕公認規程案作成

●委員会としての理事会への提案事項

○JHF規程、規約、の変更、新規作成に伴う文書管理、検討機関の必要性について

○JHF運営規程の見直し

部、局、室の根拠の作成(定款24条…)

○制度総覧の加除作業の制度化

未掲載規程

フライヤー会費規程

JHF委員会費規程

安全性委員会規程

競技規程 他

○理事会決定事項に対する不服申し立て制度の提案

○理事会決議事項の周知徹底方法の見直し(広報手段など)

安全性委員会 委員長 城 涼一

21世紀最初の委員会(1月15日)でこれからの安全性委員会を方向づける「具体的活動方針」が決まりました。そのキーワードは三つ。「継承と発展」「情報公開」そして「暗黙知を形式知へ」です。

当委員会(以下JHSC)の活動の一つである機材の安全管理のうち「強度試験」等を諸般

の事情から凍結せざるを得なくなったことにより、JHSC活動の重点はハードからソフトへと必然的に移行します。

1.従来の型式登録と事故報告・調査(分析)制度等については、諸先輩方の蓄積されたものを活かし、さらなる充実を目指します。〈継承と発展〉

2.安全確保のための「勧告」等、広報・業界等を介して情報を幅広く提供していきます。〈情報公開〉

3.積極的安全対策を志向する活動として、ハング・パラグライディング以外の分野で確立している知識や技術をハング・パラグライディングに転用する作業、一部のパイロットしか自分のものにしていないフライトに関する知識や技術を明確化・一般化し、体系化する作業があります。〈暗黙知を形式知へ〉

「具体的活動方針」及びその基盤となるJHSCの「安全性確保」の理念と観点を別に記しますので、ぜひお読みください。(JHFホームページ安全性委員会のページ、協力いただいているメディアにも掲載。)

この方針に基づき、新世紀の新JHSC活動の出発点として、まず、安全性確保の理念を具体化すべく、積極的かつ安全なフライトを実践してきたパイロットを顕彰する「JHSC優良パイロット推薦基準」を設け、フライヤー会員からの申請・正会員からの推薦を受け付ける予定です。また事故状況把握のために都道府県連盟により一層の協力を要請します。

そして、優良パイロット記事のデザイン公募や「JHSC救急法・安全講習会」も計画していますので、今後の案内にご注意ください。

JHSCでは皆様のご協力と建設的なご意見をお待ちしています。JHF事務局内JHSCまでご連絡ください。

(編集註:委員長と副委員長が交代し、城委員長、西本副委員長になりました。)

JHFの常設委員会

JHFには六つの常設委員会があります。このページに載っている、PG競技、HG競技、教習検定、補助動力、制度、安全性の各委員会です。

これらの委員会は、JHFの事業を推し進めていく重要な任務を担っています。それぞれの委員は、公募に応じ、理事会で選任された人たちです。いずれも、ハング&パラグライディングの環境をよりよくしていきたいと、寸暇を惜しんで委員会活動に励んでいます。委員の任期は2年間。現委員の任期満了が来る2002年には、再び委員の公募があります。頑張ってみようかという方、ぜひ立候補を。

来年といわず、今からでもOKの方はぜひ現制度委員会に立候補をお願いします。ご連絡はJHF事務局まで。

理 事 会 ダ イ ジ ェ ス ト

◆12月20日理事会

2000年12月20日(水)13時30分～18時 場所: JHF事務局会議室 出席: 川添喜郎、小林朋子、関谷暢人、横尾和彦、岩間雅彦、田中美由喜、松田保子、松永文也各理事、坂本三津也監事 欠席: 朝日和博、星野納、渡邊敏久各理事、宮川雅博監事 議長: 横尾和彦

■2001年度事業方針案について審議

11月理事会で審議した草案を踏まえ、事業方針(案)として川添より提出があり、議長確認により2001年度JHF事業方針案は、事業の具体的施策(案)と合わせて審議。両案を一部修正し「原案」とすることを、賛成6、反対1、棄権0で承認。1月理事会で、この原案を審議する。

■HG競技ルール改正について審議

HG競技委員長より、2001年度競技規則改正案が提出され、これを審議。表現があいまいな部分の言葉の補足、規程に反する恐れがある部分の削除、また制度委員会と協議して言葉を整理したものを2001年3月末日までに再提出することを条件に、賛成7、反対0、棄権0で案を承認。

■PG競技ルール改正について審議

PG競技委員長より、2001年度競技規則改正案が提出されたが、PGもHG同様、制度委員会と協議して3月末日までに再提出という案が修正動議として出され賛成4、反対1、棄権2で可決。

■ポイントシステムの登録事務処理委託について

松永よりHG・PGポイントシステムの登録事務処理委託について提案があり、これを審議。入金が確認された後のデータ管理、入力作業、問い合わせなども競技委員会に回すとの条件を付けたうえで、賛成7、反対0で可決。

■安全性委員会専門委員推薦について

安全性委員長より専門委員として、岡芳樹、矢ヶ崎弘志、泉秀樹、幸路尚文各氏の推薦があり、任期を2002年3月末日までとし、賛成7で可決。

■2001年F A I 賞受賞候補者推薦について

ボール・ティサンディエ・ディプロマは、柳原博昭氏(賛成4、反対1、棄権2)と、朝日和博氏(賛成5、反対1、棄権1)の推薦を決定。エア・スポーツメダルは半谷貞夫氏を候補者とし、賛成4、反対1、棄権2で推薦を決定した。

■朝日スポーツ賞の候補者推薦について

前回理事会で推薦された辻強氏を候補者とし、賛成6、反対0、棄権1で可決した。

■2000年度3月通常総会の日程

2001年3月13日(火)に、羽田空港ターミナルビルのギャラクシーホールで、3月通常総会を開催することを決定。

■電子メールによる公開質問状について

協議事項を審議事項に変更。電子メールによる質問に対し、公開質問に対しては回答しない旨を川添が伝えたところ、内容証明つきの手紙が届いたため、その回答(案)について川添より提案が

あった。賛成5、反対0、棄権2で案を可決。

◆1月17日理事会

2001年1月17日(水)13時30分～19時 場所: JHF事務局会議室 出席: 川添喜郎、小林朋子、朝日和博、関谷暢人、横尾和彦、岩間雅彦、田中美由喜、星野納、松田保子、松永文也各理事、坂本三津也監事 欠席: 渡邊敏久理事、宮川雅博監事 議長: 田中美由喜

■2001年度事業方針案について審議

前回承認の2001年度事業方針原案について審議。賛成8、反対0、棄権1で可決した。

■2001年度予算編成について審議

朝日より収支予算案が提出され、これを審議。広報出版局の支出入について修正案が出され、これを踏まえ賛成6、反対0、棄権3で可決した。

■補助動力PG日本選手権の公認辞退について

補助動力委員長より、補助動付PG日本選手権の日本航空協会の公認辞退について、提案があり、審議。公認辞退に賛成4、反対2、棄権3で、過半数に達しなかった。議論を経、さまざまな事情を考慮した上で再度採決の提案があり、賛成6、反対3、棄権0で公認辞退は可決した。

■JHFフェスティバル開催について

2000年度事業として予定されているJHFフェスティバルの実施について、川添から出された案を審議。賛成6、反対1、棄権2で可決。

理 事 活 動 報 告

JHF理事は、それぞれが担当する事業が滞りなく進行するよう、さまざまな仕事をしています。

11月下旬から1月下旬までの活動内容を各理事に報告してもらおう。

●会長 川添 喜郎

早いもので役員の任期もあと2ヵ月となりました。振り返ると、夢中で役務に没入した2年間は早すぎる感じがします。とにかく頑張ります。

12月1日は連盟が訴えられている2例目の裁判の打合せ。スカイスポーツの判例は少ないため、この対応がこれからの例となると考え慎重にあたらねばと思います。11日にJHF予算に関する常設委員会の委員長会議。前向きのご意見をいただきました。18日は「スカイレジャー」2001in石狩の発会式。今年も連盟を代表し実行委員として参加。運航委員には北海道連盟の長谷川理事長が任命されました。よろしく願います。20日、JHF理事会。来年度事業方針・予算を中心に審議。21日、文部省の検査。初めての経験に戸惑いしましたが、小林副会長と対応。先達係長、正木事務官が来局され詳しく連盟の内容を調査されました。27日は事務局の忘年会。

明けて1月11日に再びJHF予算に関する常設委員会委員長会議。約5時間にわたり熱心に討議をしていただきました。約2300万円の予算請求超過分を如何に予算内におさめるかの作業は困難を極めました。委員長各位の熱心な討議で原案が仕上がりました。本当にご苦労様でした。これを受けて17日JHF理事会で、来年度事業方針・予算案を決定。3月総会議案として正会員の皆様へ発送をしました。19日はJAA航空スポーツ団体連絡会に出席。省庁再編に伴い「レジャー」を「スポーツ」に用語統一しようという意見が出され賛同しました。26日はレジャー航空安全対策調査委員会に出席しました。

●副会長 小林 朋子

連日事務局に通うようになって3ヶ月が過ぎました。多岐にわたる業務があり、迅速な対応を心がけています。できて当たり前という仕事の中にも達成感を味わえるものもあり、多くの方の協力と励ましのおかげで運営しています。JHFの役割の大きさと会員の皆さんからの期待の大きさを実感しています。

CIVL総会が2月下旬に迫り、準備をしています。今度で4回目の出席になります。充実した会議にしたいと思っています。

●常任理事 朝日 和博

2001年度の予算編成作業中です。その経過をお伝えいたします。12月11日、各委員会の委員長さんと担当理事による2001年度事業の打ち合わせを実施。1月11日、各委員長さんにご出席をいただき、予算編成委員会を開催し、予算折衝を実施。1月17日、理事会にて2001年度の予算原案を決定。

この後は、総会にて正会員の審議を経て決定されることになる予定です。

●理事 関谷 暢人

昨秋「補助動力付パラグライディング日本選手権大会」へ競技役員として参加してきました。どちらかというと距離的に不利な北陸での開催でしたが、遠くからの選手が集まり、また、タスク内容としては高度なフライト技術で競うことができ大成功だったと思います。このイベントが全国のM P G愛好者の技術及びモラル向上につながるよう切に希望します。

年末から年頭に「委員長会議」を開催、2001年度の事業計画及び予算編成に参加しました。各委員

会が打ち出した発展的な事業を、限られた財源のために削ったり、来期に回したりしなければならず、大変もどかしい気持ちになりました。各委員長は自分達の事業計画を大きく削減され、ややもすれば意気消沈するところ、JHFの将来像への布石として奮起していただけた覇気を、十分に感じ取ることが出来ました。

●理事 岩間 雅彦

ハンググライディング教本を今年度中に刊行できるように、現在広報出版局の松田理事と協力してまとめの作業をしています。JHFが初めて出すハング教本なので、教員・助教員・一般フライヤーの方々のご意見をできるだけ取り入れようと、進捗状況に応じて原稿をホームページで公開しながら作業を進めてきましたが、理事の任期が終わる前に何とか格好がつきそうです。ご意見や励ましのメールを頂いた方々にこの場を借りてお礼申し上げます。なお、最終版に近いものを私のホームページに掲載していますので興味のある方はダウンロードしてみてください。

<http://www.imasy.or.jp/~miwama/>

●理事 松田 保子

理事の任期が残り少なくなり、出来るだけやり残しのないようにと、ラストスパートの日々です。

12月13日に広報出版局の会議。JHFレポートやホームページの内容について話し合い、2001年度の事業案を確認しました。予算がたくさんあれば、レポートを隔月ではなく毎月発行にしたいところですが、郵送料がかなりの額になるため、とりあえず2001年度も隔月刊。いつか、そう遠くない日に月刊になることを願っています。

@sky

空の情報いろいろありのページ、その名もアット・スカイ。
いつでも心は空の彼方というあなた、必読！
もちろん寄稿も大歓迎。
「お題はなあに？」や「大会報告」、エリア紹介、フライト自慢、
JHFへの意見など、ともし送ってください。
koho@jhf.skysports.or.jp FAX.03-5840-8312

14名が教員検定に合格。次回に向けてあなたの意見を。

昨年11月14日から18日まで、茨城県石岡市・新治郡の会場で開催した2000年度教員研修検定会は、29名の助教員が参加し、飛行実技（模範飛行）・教習実技・学科の各検定を受けた。検定合格者は以下の14名の皆さん。エリアで見かけたら、ぜひ声援を。

今回は新しい試みとして、教員更新講習会もあわせて開催。参加者には「有意義な体験だった」と好評だったが、開催場所や回数を増やす、会期を短くする等の意見も聞かれた。教習検定委員会では、2001年度の研修検定会や講習会に向けて動き始めており、よりよい形で実施するために、フラ

イヤーの意見を求めている。JHF事務局までファクスかEメールで。FAX：03-5840-8312 Eメール：jhf@skysports.or.jp

[パラグライディング] 教員検定合格者

阿倉 聡 大阪府 宇治山 寛 富山県
大串弘一郎 福岡県 大野 修司 愛知県
加藤 豪 兵庫県 川地 正孝 神奈川県
小林 晋 群馬県 小松 潤 東京都
志村 文 栃木県 高松 信吾 宮崎県
只野正一郎 兵庫県 八木 淳 兵庫県
若林 恵子 富山県

[ハンググライディング] 教員検定合格者
宮田 歩 茨城県



救急法の講義では実際の動作を試みる。



さまざまな講義を熱心に吸収する。

◇山頂ノート

もう10年ほど前になりますが、私の親友が交通事故で亡くなりました。生前こいつには世話になりっぱなしで、何もしてやれなくて悔しい思いをしました。そんな気持ちをぶつけるために、たまたま登った山の山頂ノートにこんな言葉が。「今日はパラグライダーで飛ぶために登ってきました。」

この時以来、「高く、高く、あいつのいる所まで……」と飛び続けてきたのですが、今は子育てに追われて山に行くのもままならない状態です。この娘が大きくなったら、またパラで知り合った女房と山を飛びまわりたいと思います。 ペンネーム：伊賀忍者

◇MAIL FROM…

大学合格がきまったある日、私宛に1枚の絵葉書が届きました。伯父さんからでした。そこには見なれた故郷の街の上を飛ぶ伯父さんのハンググライダーが写っていました。写真自体には息を呑むほどの美しさはなかったけれど、そこからは何か吸い込まれそうな不思議な魅力を感じました。

入学式を終えた私は、迷わずハングのサークルに入っていました。写真を見た日以来、私はハングに心を奪われてしまったようです。 ペンネーム：セイレーン

◇ダーリン♡

最近彼と別れました。理由は、彼がパラばかりしていて全然私の相手をしてくれ

ないから。だけど、大好きだった彼が私より優先したパラグライダーというものを、一度くらいは体験しておこうと思ったのが運のつき。あれよあれよという間にパラにハマっていく私でした。

そんな私、最近は新しい彼とラブラブです。男らしくて、かっこよくて、スマートで、楽しいけど時には厳しい。そう、私の新しい

お題は なあに？

胸ときめく大空体験「告白」コーナー
今回のお題は
「こうして私は空の世界と出会った」

彼はパラグライダーなのです!!

ペンネーム：あなたのハニー♡

◇市ヶ谷の駅で

ある音楽サークルに在籍していた当時の僕は、空の世界に魅了されるなんて思ってもいなかった。忘れもしない3年前の冬。僕は演奏会を終え、楽器を抱えて市ヶ谷の駅にいた。改札を抜けた所に、ふと僕の地元の観光案内の冊子が置いてあったのだ。「あん

な所に観光する場所なんてあるのか？」などと思いつつページをめくっていると、そこに1枚の写真が載っていたのだ。僕の中で何か動いた。

家に帰るとすぐにインターネットにつなぎ、「パラグライダー」と検索した。これがすべての始まりだった。当時の楽器はグライダー資金に代ってしまい、現在翼の半分としてがんばってくれている。

ペンネーム：空の上にはシンドがある

■次回のお題は

「みんな聞いて！私の自慢話」です。

「自慢じゃないけどアタシはね……」いいえ、どんどん自慢してください。あなたの自慢話、楽しみにしています。

＊

このコーナーでは、お題にそった皆さんの体験談をお待ちしています。笑える話、ホロリとくる話、ビックリする話、大歓迎。200字程度の文章にして、EメールまたはFAXでお送りください。ペンネーム、氏名、住所、電話番号、Eメールアドレスも忘れずに書き添えてください。作品採用の方には、ささやかなプレゼントあり！

Eメール:koho@jhf.skysports.or.jp

FAX.03-5840-8312

「JHFレポートお題はなあにに係」まで。

次回原稿締切は3月15日です。なお、文章の主旨を変えずに編集させていただくことがあります。

パラグライダー 今昔物語

第六話 P-3

栗山 公秀

懐かしのあの機体、忘れられないこの機体、 日本のパラグライディング史に名を残す翼、再登場。

「パラグライダーやってるんですって？」
時々こんなふうに聞かれます。「私もやって
みたいんだけど、高所恐怖症で……」 いえ
いえ大丈夫。だいたい高所恐怖症じゃない
人なんていけません。危険な状況で恐怖
を感じるのは人間の本能です。パラグライ
ダーは、機体やコンディションを選んで飛
べば、とても安全な翼ですから、飛んでて恐
怖を感じるのとはそうありません。

「運動音痴だからダメでしょうね……」
この問いには、自転車に乗れる運動神経と
体力があれば大丈夫、と答えています。僕だっ
て決してスポーツマンじゃない(むしろ苦
手なほうデス)もんね。つまり必要なのは飛
びたいという気持ちだけ、あとは特別なも
のなんかいらないうんです。皆さんどう
思いますか。

危険な状況って案外パイロット自身が作
り出すもので、たとえばフライトに適さな
いコンディションでのフライトや、乗りこ
なせないような高性能機に無理して乗っ
ているといった行為によって生まれるんじ
ゃないかな。安定した機体に乗ってれば安定
したフライトが期待できる、というわけで、
今回紹介するのはパラテックP-3です。

1981年ころの市販パラグライダーで、一
番HOTなパラグライダーといえば、やっぱ
りパラテックのP-3でしょう。

定評のあったP-2を過激にチューニン
グ。結果、当時としてはかなりハイアスペク
トのテーパー(先細)翼になりました。カラー
は3種類。しかしいずれのカラーもアッパー
サーフェスはライトグレー一色です。ライ
トグレーは紫外線の吸収が少ないらしく、
少しでも劣化をおさえる配慮のようです。
さすが性能第一主義!

飛びっぷりもなかなか過激で、まさに
競技用マシンでした。当時、“性能”と“安全
性”はほぼ反比例してましたから、あれだけ
の性能を手に入れるために失うものも少な
くなかったでしょう。それは例えば、とある
大会で宿の風呂でいっしょになった某コン
ペティターの、「P-3のパイロットで落ちこ
ちてないやつはいない」という一言で見事
に表現されています。

そういう僕もその高性能ぶりに惹かれ、
一時購入を検討したものの、テイクオフの
様子や飛びを見て、「こりゃ乗りこなせん」
と、びびって断念したのはここだけのナイ
ショ話です。

また別の大会では、ダミーで出た学生のP
-3が吹き抜ける強風につかまり、高度を落
とそうとBストールを何度も試みるもうま
く入らず、いずれもくしゃくしゃになりな
がらフルストール気味に失速する光景をテ
イクオフから眺め、「ひゃーやっぱりおっか
ない機体」と再確認(?)させられました。



それでも「とにかく高性能なグライダー
がほしい!」というパイロットは少なく
なく、そういった人たちはうってつけのグ
ライダーでした。他メーカーが新型を投入
しても、性能に色褪せることはなく、比較
的の長いモデルだったと記憶しています。

あのカッシー(柏倉氏)もその昔愛用し
ていて、新型P-4登場後、購入するもその性能
に失望し、再びP-3を買い戻したというの
は有名な話です。

当時、高性能を謳いながら、飛ばせてみる
とちょっとコンディションが荒れるとまと
もに乗れない“数字だけ高性能”な機体が少
なからずありましたが、P-3は“性能”と“乗
りこなせる”のバランスの限界ぎりぎりの
あたりだったかもしれません。そういった
意味では飛びきりの高性能機といえるで
しょう。

栗山公秀(くりやま公秀)

初フライトは1987年7月、それ以来バラに
はまる。コンペにも参加していたが今は月1~2
日程度のマンスリーフライヤー(とほほ)。ホーム
エリアはスカイパーク宇都宮。現在二児の父。



●ジャパンリーグ登録の前に

パラグライディングのジャパンリーグに
登録する方へのお知らせ。

登録の前に、FAISポータリングライセン
スを各自で取得してください。PG競技委員
会では、手続きを簡単にするために、スポー
ティングライセンス申請とリーグ登録を一
緒にできる方法を考えていましたが、ス
ポータリングライセンスの申請料などが変
わったため、上記のように各自でスポー
ティングライセンスを申請していただくこ
とになりました。ジャパンリーグに登録予
定の方は、早めにスポータリングライセン
スの申請を済ませてください。

FAISポータリングライセンスの申請窓
口は(財)日本航空協会です。問い合わせは直

接、航空協会にしてください。TEL.03-3502-
1203

ジャパンリーグの登録申請書に、スポー
ティングライセンス番号の記入欄がありま
すので、忘れずに記入してください。急いで
ジャパンリーグに登録したいが、まだス
ポータリングライセンスの番号が届いてい
ない……という場合は、ジャパンリーグ登
録申請用紙に、スポータリングライセンス
申請料の送金控えを添付してください。

●PGセイフティセミナーを開催

3月1日・2日の両日、東京都新橋の航空会館
会議室において、PG教員・助教員が対象の
「パラグライディングセイフティセミナー」
を開催します。

講師には、ドイツハンググライディング
連盟技術主任のハインス・バイニンガー氏、
ハリー・ブンツ氏のお二人を迎えます。セミ
ナーの内容は、後日JHFレポートに掲載する
予定です。お楽しみに。(参加申し込みは締
切りしました。)

●フライヤー会員登録更新の際は

JHFフライヤー会員登録の有効期限切れ

が近い方には、登録更新の用紙(振り込み用
紙)を事務局からお送りしています。この振
り込み用紙は、1年登録用と3年登録用、2種
類をお送りしているので、郵便局またはコ
ンビニエンスストアで会費を振り込む際
に、1年用と3年用どちらかを使用してくだ
さい。

1年用と3年用の振り込み用紙を間違えて
使うことのないよう、また、両方使って二回
も登録更新することのないよう、ご注意く
ださい。

●JHFへの意見を求む

JHFへの意見をJHFレポートに掲載しま
す。あなたの考えをファクスまたはEメール
でお送りください。前向きなご意見を待っ
ています。匿名での掲載も可能ですが、送稿
時には必ず氏名・連絡先を明記してくださ
い。

JHFレポート意見箱係

FAX.03-5840-8312

Eメール:koho@jhf.skysports.or.jp

@sky

2000年の競技を振り返る



昨年の競技界で一番のニュースは、やはりパラグライディングの辻強選手がワールドカップで優勝したことだろう。ハンググライディングでは学生のリーグ戦が始まり、どの大会も大盛況でこれからが楽しみだ。スペインでハング・パラグライディングの世界選手権が開催される今年、日本選手に大きな声援をおくるのはもちろんのこと、優れた競技者を育むために何ができるか、しっかり考えていかねばならない。

まずは、昨年の競技界を2人の競技委員長に振り返ってもらった。

■草大会に盛り上がり

HG競技委員会 委員長 大澤 豊

2000年は例年になく大会数の少ない1年だった。ポイントシステム(2001年からはハンググライディングシリーズ)対象大会の開催は8戦(例年10戦ぐらい。多い年で12戦)。また天候に泣かされた1年だった。ポイントシステム対象大会について言えば好条件の続く大会が少なく、1位のポイントが50点を越えた大会は2戦のみだった。また参加人数の減少に歯止めをかけることはできず、50人を超える大会は3戦しかなかった。さらに26年目に初めて日本選手権が不成立に終わり、HG日本チャンピオンが選出されなかった。

それに反して公認大会は例年通り11戦開催された。今や草大会の方が盛り上がっているようだ。これはやはりXC技能証の影響が大きいのではないと思われる。

2000年シーズンから「学生リーグ」も始まった。我々は「手助けをする」というスタンスで、学生による学生のためのリーグだ。2000年は3戦開催され、どの大会も盛況だった。このリーグは年度別なので、2001年3月に茨城県板敷山エリアで開催される学生選手権の結果を踏まえて年間チャンピオンが選出される。

今年は世界選手権がスペインで開催される。昨年、一昨年のポイントの合計で参加メンバーが選出される。しかし2000年より実行のルールにより、クラス1選手枠6名のうち1名をプレ世界選手権の成績上位から選

出。太田昇吾選手の出場がすでに決まっている。これにより日本チームの若返りが図られた。

他のクラス1選手を紹介しよう。大門浩二、外村仁克、平林和行、峰岸正弘、氏家良彦だ。女子枠は参加希望者がいないため選出はなかった。また本戦でのドタキャンを考えて今回は補欠を用意した。山本貢、富原淳、大沼浩の3名である。クラス2選手の選出は2001年3月に開催される選考大会の結果待ちである。

2001年は、より一層競技が活性化され、ハンググライディング全体の活性につながることを切望している。

■辻の優勝に感動

P G競技委員会 曾我部 真人

2000年を振り返ると、様々な思いやコンペでのシーンが蘇ってきます。年々日本の競技レベルも上がり、各国各地の大会で日本選手の活躍が話題になるようになりました。なんといっても辻強選手のグラナダでのPWC日本人選手初優勝が大きなニュースでした。以前にも扇沢選手がPWCで表彰台に上ったことがありました。しかしその頂点に上がる日はなかなか実現しませんでした。そんな中、辻優勝のニュースが舞い込み、ついに日本人が世界の頂点に立ったことに多くのパイロットが感動したのではないのでしょうか。また、2000年は天候に悩まされ続けた日本選手権がようやく成立し、4年ぶりに日本チャンピオンが決定しました。日本選手権を制したのは勢いに乗る辻強選手でした。

2001年度の世界選手権の参加選手枠を巡って、カテゴリー2大会に参加していた日本選手の中で、現時点では、川地正孝選手が世界ランキング2位、辻強選手が同じく3位、そして世界の中での日本のランキングが4位という輝かしい成績。世界という舞台で日本人選手達がこれほどまでに活躍することは、誰もが予想出来なかったことではないのでしょうか。今年スペインで開催される世界選手権では、日本チームの成績が大いに期待されます。正式発表はまだありません。

んが、日本チームは男子5名、女子2名の選手数になるのではと予想されています。

勢いに乗っている今こそ、世界選手権での活躍を願い、また次の世代の選手が出てくことに期待する2001年です。

2000年 パイロットランキング 躍進の平林、不動の扇澤。

■ハンググライディングポイントシステム 〈総合〉

1位	平林 和行	茨城県	183.30点
2位	大門 浩二	茨城県	160.47点
3位	外村 仁克	大阪府	149.65点
4位	氏家 良彦	大阪府	148.18点
5位	今嶋 功	鳥取県	146.35点
6位	山本 貢	茨城県	146.02点
7位	鈴木 博司	三重県	141.15点
8位	太田 昇吾	千葉県	141.04点
9位	波多野康雄	兵庫県	140.09点
10位	高橋 元樹	千葉県	137.95点

〈女子上位者〉

26位	岡田 明子	静岡県	85.86点
43位	井手 有生	兵庫県	58.45点
45位	福田 佳代	茨城県	55.72点

■ハンググライディングXCリーグ

1位	砂間 隆司	茨城県	170.92631km
----	-------	-----	-------------

■パラグライディングジャパンリーグ

〈総合〉

1位	扇澤 郁	富山県	223.2点
2位	加藤 豪	兵庫県	164.1点
3位	部 哲行	兵庫県	148.3点
4位	山下 慎吾	埼玉県	143.4点
5位	加賀山 務	静岡県	140.5点
6位	只野正一郎	兵庫県	136.4点
7位	児島 彰	広島県	131.7点
8位	水沼 典子	栃木県	131.7点
9位	長島 信一	埼玉県	131.0点
10位	宇治山 寛	富山県	120.9点

〈女子〉

1位	水沼 典子	栃木県	131.7点
2位	田中美由喜	東京都	73.9点
3位	神山 和子	茨城県	63.9点
4位	岡部 奈奈	山形県	37.7点
5位	北 かおり	岡山県	33.0点

■パラグライディングスポーツ

パラグライダーシリーズ (SPS)

1位	山崎 義男	岡山県	129.8点
2位	佐名木真吾	愛知県	129.6点
3位	岡本 菊夫	東京都	129.1点
4位	鈴木 信吾	愛知県	124.2点
5位	真鍋 務	大阪府	119.1点

■パラグライディングXCリーグ

1位	横堀 清	茨城県	計 196.1km
2位	児島 彰	広島県	計 195.3km
3位	斉藤 竜男	東京都	計 133.5km
4位	仲野 勝明	栃木県	計 119.4km
5位	松岡 茂	山口県	計 80.2km

岡田 明子
おかた あきこ伸弘さん(14位)と夫婦で競技を楽しむ。仕事はPOP
広告の制作(ポップ屋さん)。HG歴10年。39歳。水沼 典子
みずぬま のりこ今年の世界選手権は「自分の力を精一杯出します」と
抱負を。PGインストラクター。PG歴14年。35歳。砂間 隆司
すなま たかし昨春の約171kmの記録は、国内記録にほんの僅かおよ
ばず。もちろん今年も狙っている。HG歴6年。26歳。山崎 義男
やまざき よしおいろいろな場所で飛びたくてSPSに参加。1年目にして
トップに立った。会社員。PG歴もうすぐ5年。38歳。平林 和行
ひらばやし かずゆき毎年、オーストラリアのコンペシーズンを飛びまくる。
2000年度日本選手権で優勝。HG歴15年。32歳。扇澤 郁
おおぎさわ かおるなんと5度目のランキング1位。世界を舞台に活躍。PG
メーカーのテストパイロット。PG歴13年。41歳。横堀 清
よこぼり きよしXCを始めたきっかけは「遠くに行きたいってことだけ」。
自動車(ハイヤー)運転手。PG歴10年。52歳。

● 大会報告 ●

風の聖域カップ2000

2000年11月23日～25日

岡山県阿哲郡大佐町 大佐山エリア

〔総合〕

1位	長島 信一	1469点
1位	部 哲行	1469点
3位	加賀山 務	1444点
4位	加藤 豪	1424点
5位	神野 竹虎	1400点
6位	矢野 孝史	1313点

★全体にやや渋いコンディションであったが、20km級のタスクが2本成立する事となった。3日目はフライトが出来る状態であったが1日目、2日目と比べると更にサーマル活動が弱くなるとの予報。臨時にデュレーション・ターゲット競技を行い、全日程が終了した。大佐山において、初のJリーグの大会であったが、無事に2本のフライトが成立した。来年もまたJリーグを開催する予定である。 [記:産本 元]

西日本ハンググライディング学生選手権

2000年11月25日・26日

広島県 神の倉・荒谷山エリア

[1st Class]

1位	高橋 元樹	NARAHAN	451点
2位	二宮 祥平	NARAHAN	219点
3位	磯部さやか	AIOLOS	212点
4位	深見 浩司	SKYJACK	206点
5位	面川 篤志	NARAHAN	187点
6位	加藤 晋	SKYDUST	178点

[2nd Class]

1位	黒田 覚祐	Zephyr	905点
2位	折出 隆幸	SKYDUST	691.25点
3位	高橋 和良	岐阜大ハング	653.75点

★学生リーグ第3戦。神の倉には多くの学生フライヤーが集合し、2日間にわたる熱い戦いを繰り広げた。天気も予想よりいい方向にずれ、2日も競技ができ、成立となった。しかし、今回はどこでもサーマルがあるようなコンディションにはならなかったため、上手く移動しないかぎり距離が伸びないという難しい条件の中の競技になった。

初日は、日差しがわずかに差し込むタイミングを狙ってテイクオフ。テイクオフ右の尾根に20機ほどのガーグルができた。

2日目はテイクオフレベルでサーマルを探るのが難しかった。しかし、上げきった選

手は雲底までつけ、タスクをこなすことが出来た。

総合では、またしても高橋選手がぶっちぎりで優勝。女子では、総合でも3位に入賞した磯部選手が今回もいい飛びをした。

今回、色々な面で、それぞれの差が出た大会だと思った。次は、3月の学生選手権。すばらしい競技ができることを期待している。

[記:堀部 貴弘]

フライトインウチタ メイヤーズカップ2000

2000年11月25日・26日

和歌山県那賀郡田田町 紀ノ川フライトパーク

★初日。前線の影響で海風が入らず、テイクオフ上空の逆転層がとれない。約10kmのタスクを組むが、第1パイロンが取れず、この日の競技はキャンセルとなった。迎えて2日目。予報は昨日より遥かにいいものの、サーマルは非常に弱い。結局、ミニマム超えがなく、2日目もキャンセルとなってしまった。この時点でSPSメイヤーズカップは不成立となり、幕を閉じた。 [記:宮浦 博之]

@sky

Animal farm

ショーティの後の巻

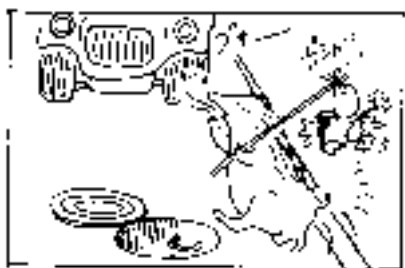
あてどもない旅を続けるショーティにさまざまなお便りが。

ショーティのその後を知りたい
37才主婦

ショーティは僕らと同じだ
17才高校生

どうせタンデムするならパイロットで飛べばよかったのに
25才フライヤー

今だから語ろうその後のショーティを。



ショーティに迫る危機また危機！



そして新たな出会いと！



全世界は感動する！

空のかお
その36

佐藤 均さん

(さと う ひとし)



右から均さん、長男の良行君、次男の良太君。

とっても陽気なお父さん、といった印象の佐藤さん。ドライブ中にパラグライダーを見かけたことがきっかけで、パラを始め、3年目になりました。パイロット証取得おめでとうございます！

安全第一で飛ぶのがモットーで、最終目標はクロスカントリー証とのこと。毎週日曜日には、高校3年生の良行君と中学3年

生の良太君を連れて、京都のご自宅から岩屋エリアに通っています。実は息子さん二人も、もうノービスパイロット証を持つほどの腕前。

数々の名選手を生んでいる岩屋エリアの佐藤さん親子から目が離せません！佐藤さん、これからも元気なお父さんでいてくださいな。

12月・1月のパイロット証取得者

(敬称略 数字は認定日)

パラグライディング

12.4 板橋 芳人
12.4 上野 雅之
12.4 田村 茂
12.4 小山 太計男
12.4 富田 修
12.4 畑尻 正孝
12.4 奥 光男
12.4 長谷川 敬晴
12.4 明間 敏
12.4 浦山 健二
12.4 山本 修
12.5 土岐 哲夫
12.5 磯山 純子
12.5 福元 宏行
12.5 秦 今朝富
12.5 石川 和夫
12.5 望月 一正雄
12.5 夏見 寿進
12.6 大嶋 一晴
12.6 井寛 一晴
12.6 竹中 武士
12.6 松尾 毅
12.6 湯山 尚子
12.6 湯川 勝
12.6 今村 昌洋
12.6 藤井 忠彦
12.6 信田 俊幸

12.6 伊藤 権一
12.6 平野 克一
12.6 井戸 憲一
12.6 内堀 賢太郎
12.8 坂本 昌睦
12.12 岡崎 康夫
12.12 山崎 秀人
12.12 関根 史郎
12.12 西村 正敏
12.12 松田 智樹
12.12 川野 清志
12.12 佐々木 謙一
12.12 神原 純子
12.12 中上 浩貴
12.12 近藤 康
12.13 小森 さちよ
12.14 上田 賢治
12.15 新垣 悟
12.15 恵子 一雄
12.21 河村 晴江
12.21 樋口 隆之
12.21 松原 敏弘
12.21 山城 榮光
12.21 薄田 基
12.21 佐久間 基
12.21 宮城 豊

12.21 井口 嘉一
12.21 深津 敏夫
12.21 増田 正
12.21 野沢 佳成
12.22 磯部 孝文
12.22 佐々木 輝徳
12.22 八田 清志
12.27 内藤 隆夫
12.27 今越 隆夫
12.27 山崎 國芳
12.27 石川 慎一
12.27 工藤 友香
12.27 星島 真司
12.27 金本 真司
12.27 大越 静枝
12.27 庵 祥子
12.27 関谷 隆雄
12.27 伊藤 隆雄
12.27 山下 忠雄
12.27 白戸 久寿
12.27 白石 久寿
12.27 大石 譲
12.27 倉澤 傑
12.27 佐藤 均
12.27 中村 実
12.27 小田 雅明
12.27 猪野 万季子
12.27 木内 洋和

12.27 藤巻 優士
12.27 山本 絢子
12.27 竹内 昭人
12.27 鈴木 美代子
12.27 入山 朋一
12.27 伊東 康次
12.27 榎本 康次
12.27 藤田 朋弘
12.27 中松 利枝
12.27 原田 智行
12.27 池本 聖一
12.27 山口 美津男
12.27 戸森 富之
12.27 秋山 達巳
12.27 増田 貴代
12.27 土屋 春彦
12.27 矢根 照夫
12.27 箱石 一利
12.27 小宮 嘉雄
12.27 斎藤 勝雄
12.27 野田 繁
12.27 佐々木 恵無
12.27 中村 久敏
12.27 渡辺 格
12.27 関谷 正二
12.27 田中 ともみ
12.27 滝藤 義雄

12.12 三浦 修
12.12 澤木 明子
12.12 酒井 信夫
12.16 藤井 敏雄
12.18 橋口 操
12.19 久保 弘次
12.19 岩本 緑
12.19 藤原 由紀子
12.19 細川 実
12.22 久保田 茲朗
12.25 真柴 英男
12.25 稲田 稔
12.30 佐藤 修
12.31 木村 正継
12.31 小林 弘明
12.31 戸高 雄史

ハンググライディング

12.12 金田 崇司
12.12 田中 豊也
12.22 水谷 吉行
12.22 寺岡 和喜
12.22 山地 一史
12.27 長岡 克樹
12.19 大田 祐輔

1月31日までのフライヤー会員登録数

登録年数	11月30日現在の有効登録数	12月の登録数	1月の登録数	有効登録数
1年	7,970	361	309	
3年	5,407	216	169	
合計	13,377	577	478	13,702

12月・1月の技能証発行数

ハンググライディング				パラグライディング			
技能証種類	12月の発行数	1月の発行数	1月31日までの発行数累計	技能証種類	12月の発行数	1月の発行数	1月31日までの発行数累計
P証	6(0)	1(0)	4,917	P証	87(12)	36(6)	18,998
C証	9(2)	4(0)	6,891	NP証	100(25)	45(13)	9,682
B証	13(5)	11(4)	11,515	B証	144(34)	66(23)	40,884
A証	15(4)	13(4)	11,929	A証	224(77)	63(21)	44,786
補助動力証	1(0)	0	127	補助動力証	2(0)	0	921
XC証	5(1)	4(1)	1,141	補助動力NP証	0	0	66
タンデム証	1(0)	0	34	補助動力B証	0	1(0)	130
				補助動力A証	0	1(0)	159
				XC証	26(1)	9(3)	3,835
				タンデム証	14(0)	16(0)	439

*()内の数字は発行数中の女性の人数です。

●編集を終えて

春。暖かさに誘われて自然のなかに飛び出したいくなるのは、生物の本能か。うかれて事故に遭わぬよう、気象予報士の内藤氏が書いてくださった「春を事故なく飛ぶために。」をよく読んでください。冬眠していた人は特に。 JHF広報出版局

JHF ホームページもご覧ください。

<http://jhf.skysports.or.jp/>

JHFレポート3・4月号 (No.164)

発行日 2001年2月20日 定価10円
発行 (社)日本ハンググライディング連盟
〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11
春日Shimaビル8階

TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312

編集 JHF企画部広報出版局

印刷 日本印刷(株)

この印刷物は再生紙を使用しています。